

# 安曇野市環境基本計画

～ みんなで安曇野の環境を考えよう～

平成 27 年度 年次報告書

平成 28 年 3 月

安 曇 野 市

- 目次 -

1 平成 27 年度の取り組みの概要	4
2 平成 27 年度の取り組み結果	6
2.1 環境基本計画推進会議	6
2.1.1 会議の開催状況	6
2.1.2 「市全体のテーマ」について	8
2.2 安曇野環境市民ネットワーク	9
2.2.1 概要と事業内容	9
2.2.2 平成 27 年度事業内容	10
2.3 環境基本計画庁内調整会議	11
2.4 環境審議会	11
2.5 安曇野環境フェア 2015	12
2.5.1 開催のねらい	12
2.5.2 開催概要	12
3 行動計画実施結果	14
3.1 行動計画について	14
3.2 重点プロジェクトの一覧	14
3.3 各重点プロジェクトの結果	16
4 参考資料	73
4.1 参考資料 1：環境基本計画の推進体制と進行管理	73
4.2 参考資料 2：安曇野市環境基本計画推進会議委員 名簿	76

## ■ はじめに

平成 27 年度環境基本計画の推進は、中間見直しされた後期の計画に基づき 3 年目の進捗状況の確認並びに評価を行って参りました。

環境基本計画の推進につきましては、計画した諸施策および行動計画に、それぞれの進捗状況を照らして慎重に考察し、評価をさせて戴きました。

本年度の進捗状況は、概ね計画に沿い進捗されたことを確認し、良好であったと評価させていただきました。

諸施策や行動計画の計画設定については、市民、事業者、行政のそれぞれにおいても、際立った無理をせずに、日常生活の中でも、切れ目なく実行可能な取り組みを意識して、立案し、息長く、着実な取り組みがなされることを目指して推進を図って頂きました。

安曇野市環境基本計画策定以来、計画が絵に描いた餅にならぬように、安曇野市環境基本計画推進会議が立ち上げられ、本年度まで 8 年間に渡りその任を果たして参りました。この歩みを大切にしつつ、今後も、市民、事業者、行政の 3 者が携え、わが安曇野市の環境を守り、育む事を期待して止みません。

平成 28 年 3 月

安曇野市環境基本計画推進会議  
会 長 千 國 温

## 1 平成 27 年度の取り組みの概要

環境基本計画の具体的な行動の指針である「第二次環境行動計画」が策定されて 2 年目となる平成 27 年度は、第二次環境行動計画で定められた二つの重点プロジェクト「環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）」と、「計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）」にしたがって、活動を展開しました。

「環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）」では、主体となる市民、事業者、行政が具体的に何をすればよいのか分かる形で環境に関する行動のプログラム化を行い、全市的に展開していくことを目指しました。また、「計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）」では、他計画の方針に沿った取り組みについて推進会議で進行管理を行い、推進と実践を進めました。

### 重点プロジェクトの区分

#### 環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）

##### ねらい

- ・取り組みが必要な活動について、市民、事業者、行政が何をすればよいのか分かるようプログラム化し、具体的に進めていきます。
- ・達成度が分かるよう数値目標を設定し、進行を管理します。

##### 網羅する範囲

- ・第一次行動計画では取り組みが十分ではなかった活動
- ・他計画では網羅しきれしていない活動

#### 計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）

##### ねらい

- ・庁内調整会議など関係部署と連携しながら、進行を管理します。
- ・年度内に 2 回程度の頻度で、関係部署の担当者から進捗状況について報告を受け、工程が遅れたり見直しが必要と判断される項目については、取り組みの改善を要望します。

##### 網羅する範囲

- ・他計画等で推進されている活動

また、8 回目となる「安曇野環境フェア 2015」が開催され、2 日間で約 1,800 名の来場者が訪れ、盛況な結果となりました。

表 1 に、平成 27 年度における取り組みの概要を示します。

表 1 平成 27 年度の取り組みの概要

区分	名称	内容
推進体制	環境基本計画 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議の開催（計 7 回）</li> <li>・ 年次計画の策定、進捗状況の確認および評価、年次報告書の作成。</li> </ul>
	安曇野環境市民 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安曇野環境フェア 2015 を安曇野市、安曇野環境フェア実行委員会と共催した。</li> </ul>
	環境基本計画 庁内調整会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以下の取り組みについて確認した。 平成 27 年度 市環境基本計画年次報告書 平成 28 年度 市環境基本計画年次計画書 平成 27 年度 市地球温暖化防止実行計画</li> </ul>
	環境審議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 27 年度 市環境基本計画年次報告書の承認</li> </ul>
イベント等	安曇野環境 フェア 2015	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 27 年 10 月 10 日、11 日の 2 日間にわたり開催した。</li> <li>・ 74 団体と個人等による出展があり、2 日間で約 1,800 名の方が来場した。</li> </ul>

## 2 平成 27 年度の取り組み結果

### 2.1 環境基本計画推進会議

#### 2.1.1 会議の開催状況

環境基本計画を推進する主体である「環境基本計画推進会議」は、市民・事業者・行政の取り組みの施策・事業における提案、計画推進のための啓発活動や支援、進捗状況の点検・評価と年次報告の作成を主な目的としています。委員は、事業団体の推薦を受けた者、環境保全活動団体の推薦を受けた者、公募により選考された市民、市長が必要と認められた者（環境基本計画策定委員経験者）からなる 16 名で構成されています。

平成 27 年度は、「第二次環境行動計画」で策定された重点プロジェクトを推進するため、年次計画の策定から実施状況の把握、平成 27 年度の評価等について、7 回の推進会議を開催しました。また、このほかにもワーキンググループ(WG)ごとの会合も開かれています。

WGの編成を表 2 に、推進会議等の経過を表 3 に示し、重点プロジェクトの実施状況については、「3-3. 各重点プロジェクトの結果」にまとめました。

表 2 ワーキンググループ(WG)の編成

WG名	対象の重点プロジェクト
自然	安曇野にふさわしい生態系を守る 森づくりを推進する 耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る 地元産農産物の地域内での消費拡大を図る
景観・まちづくり	身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする 豊かな地下水を保全する 臭気規制を導入する
資源・エネルギー	緑化と省エネを主体とした CO2 削減に取り組む ごみを減らそう 環境マネジメントシステムを導入する 自然エネルギー導入を進める

表3 安曇野市環境基本計画推進会議の経過

日 時	会議名称	内 容
平成 27 年 4 月 23 日	第 8 回 推進会議	(1) 平成 27 年度 環境基本計画年次テーマについて (2) 安曇野市地球温暖化対策行動計画について (3) 平成 27 年度 実施計画について
7 月 21 日	第 9 回 推進会議	(1) 委員の委嘱について (2) 平成 27 年度実施計画年後テーマについて (3) 安曇野市地球温暖化対策行動計画について
9 月 11 日	第 10 回 推進会議	(1) 委員の委嘱について (2) 平成 26 年度年次報告について (3) 事業評価について (4) 安曇野市地球温暖化対策行動計画について 他
11 月 18 日	第 11 回 推進会議	(1) 平成 27 年度事業中間報告について (2) 事業評価について (3) 環境フェアについて 他
平成 28 年 1 月 12 日	第 12 回 推進会議	(1) 平成 27 年度事業評価について (2) 平成 28 年度事業計画（案）について
3 月 15 日	第 13 回 推進会議	(1) 平成 28 年度実施計画（案）について
3 月 22 日	第 14 回 推進会議	(1) 平成 27 年度事業中間報告について

## 2.1.2 「市全体のテーマ」について

「市全体のテーマ」とは、安曇野市の環境をより良くするために、市民・事業者・行政の各主体が積極的に取り組む共通テーマであり、共通の目標に向かって各主体が取り組むことにより、目に見える形で成果が上がることを期待しています。「市全体のテーマ」を現在進行中の重点プロジェクトとリンクさせるとともに、環境フェアや各種生涯学習講座との連携をはかって目に触れる機会を増やすことにより、市民など様々な人々の関心を高め、取り組みへの機運が高まることを目的としています。

「市全体のテーマ」は、以下の2つです。

### 年次テーマ 『安曇野の環境を知り、育み、伝える』 ～身近なことから取り組もう～

#### 【選定の理由】

- ・これまで「知り、育み、伝える」というテーマで進めてきた安曇野の環境について、これからはみんなが考え、自分のできることから取り組める行動につなげていくことが大切です。
- ・ひとりひとりの身近な行動が、市民自らの手で安曇野の環境をより良くしていく積極的な環境活動となることを目指します。

### 長期テーマ 『地球温暖化防止にみんなで取り組む』（設定期間：H20～H29）

#### 【選定の理由】

- ・地球温暖化による気温の上昇はすでに実感として感じられるようになってきており、地球温暖化防止は地球全体で取り組むべき課題と言えます。
- ・地球温暖化は地球規模の環境問題ですが、防止のためには日々の暮らしや営みの中で地道に取り組む必要があることから、安曇野市環境基本計画の期間を通じた共通のテーマとして、継続的に取り組みます。

#### 【関連する重点プロジェクト】

緑化と省エネを主体とした CO<sub>2</sub> 削減に取り組む  
森づくりを推進する  
環境マネジメントシステムを導入する  
自然エネルギー導入を進める

## 2.2 安曇野環境市民ネットワーク

### 2.2.1 概要と事業内容

「安曇野環境市民ネットワーク」は、市内全域または各地域において環境保全のための活動をおこなっている各種団体のとりまとめ、および連絡・調整をおこなうことを目的として平成 21 年 9 月に発足しました。

事業内容は、大きく分けて コミュニケーション、 環境学習の企画と実施、 環境基本計画および行動計画の実施、 普及啓発の 4 つです。

平成 27 年度は、総会、全体会、運営委員会を各 1 回開催し、ネットワーク加盟団体の情報発信及び交流を深めることを目的とした談話会「環カフェ」を計 4 回、明科中学校環境講座を 9 回開催しました。

これらの会議等以外にも、昨年度より引き続き、安曇野環境フェアの実行委員会はネットワーク加盟団体の会員を中心に組織され、環境フェアの共催・運営をおこないました。

表 4 安曇野環境市民ネットワークの事業内容

区 分	内 容
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ネットワーク参加団体および個人に関する情報の提供と公開</li><li>・ 参加者同士のコミュニケーション</li><li>・ 交流会等の企画</li></ul>
環境学習の企画と実施	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 環境学習プログラムの企画と実施</li><li>・ 環境学習におけるリーダー等、地域に貢献できる人材の育成</li><li>・ ネットワークのつながりを活用した環境学習の企画と実施</li></ul>
環境基本計画および行動計画の実施	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 環境基本計画、環境行動計画の推進への協力</li><li>・ 環境保全上の課題への対応</li></ul>
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"><li>・ インターネット上での情報公開</li><li>・ 活動拠点における情報提供</li><li>・ 各種環境イベントの企画と運営、参加と協力</li></ul>

## 2.2.2 平成 27 年度事業内容

表 5 安曇野環境市民ネットワークの事業内容

日 時	会議等名称	内 容
平成 27 年 4 月 24 日	全体会	・明科中学校の総合的な学習の時間 「ホームタウン明科」講師依頼対応について 他
8 月 22 日	第 1 回 「環カフェ」	・テーマ「里山について考えよう」 安曇野市役所 農林部 耕地林務課 林務担当
11 月 14 日	第 2 回 「環カフェ」	・テーマ「「暑い寒いを我慢しない暮らし方教えます」」 安曇野建築三会 安曇野支部 岡江 正さん
12 月 12 日	第 3 回 「環カフェ」	・テーマ「虫の目を見た安曇野の自然」 三郷昆虫クラブ世話人 那須野 雅好さん
平成 28 年 1 月 16 日	第 4 回 「環カフェ」	・テーマ「私たちの未来を創る」 安曇野市環境基本計画推進会議委員 本木 修一さん
月 日	運営委員会	・平成 27 年度総会について
月 日	総会	・平成 26 年度事業報告及び収支決算 ・平成 27 年度事業計画及び収支予算

表 6 明科中学校の総合的な学習の時間

日 時	内 容
5 月 25 日	開講式（環境市民ネットワーク座長）
6 月 8 日	オキナクサ植栽（安曇野緑の会）
6 月 22 日	葉っぱを使ったスタンプづくり・校庭の草木の観察（森倶楽部 21）
6 月 29 日	緑のカーテンと育て方（NPO 法人 あづみ野風土舎）
7 月 13 日	太陽熱についての学習（サンジュニア）
8 月 31 日	ホームタウンのいきものたち（アルプスあづみの公園管理センター）
9 月 14 日	ホームタウンの風景をみつけよう～故郷の景観を考えよう パート 2 （安曇野建築三会）
9 月 28 日	マイ箸・はがきづくり （マイ箸づくりサポートボランティア・安曇野市消費者の会）
10 月 26 日	閉講式（環境市民ネットワーク座長）

### 2.2.3

## 2.3 環境基本計画庁内調整会議

庁内の担当課を明確化した上で、関連する施策の連携を強化し、環境に関する施策・事業を効果的に推進するため、庁内の連絡調整をおこなうことおよび庁内地球温暖化防止実行計画等の策定・推進・評価等をおこなうことを目的として設置しました。

表7 環境基本計画庁内調整会議の経過

日付	会議名称	内容
平成27年 7月1日	庁議	<p>平成26年度 市環境基本計画年次報告書について（報告） 平成27年度 市環境基本計画年次計画書について（報告）</p> <p>概要：年次報告書、年次計画書の内容を説明し了承された。</p> <p>市地球温暖化防止実行計画に係る平成26年度の取り組み結果について（報告）</p> <p>概要：CO2 排出量は基準年度（H20）と比較して約2%（142,899Kg）の増加 増加理由 保育園、交流学習センター、給食センターなどの施設の新築や改築（11施設） 保育園、小学校などの冷暖房設備の設置や改修</p> <p>各部署への依頼事項 「省エネ」を心掛け「無駄なエネルギーを減らす」取組を依頼 基準年度比10%以上の増減があった施設にはその要因の照会をした。</p>

## 2.4 環境審議会

安曇野市環境基本条例に基づき設置されるもので、環境基本計画に関することや環境保全に関する基本的事項を調査審議するための、学識経験者中心の諮問機関です。

環境問題に対し、市長の諮問に応じ答申することのほか、環境基本計画の進捗状況を管理する「環境基本計画年次報告」の承認等をおこなっています。

表8 環境審議会の経過

日付	会議名称	内容
平成27年 4月24日	第1回 環境審議会	平成26年度 市環境基本計画年次報告書について（報告）

## 2.5 安曇野環境フェア 2015

### 2.5.1 開催のねらい

安曇野環境フェアは、「環境基本計画」に基づく取り組みの一環として、8回目となりました。

本フェアでは、「環境基本計画」で定められた取り組みを広く紹介するとともに、出展者と来場者の交流を深め、参加していなかった人も巻き込みながら参加者同士がお互いの顔を見えるようにし、つながりの環を広げていくことを目指しました。

今回の開催の目的は、以下の3点でした。

環境に関する課題を市民が共有できる場を提供する。

出展者と来場者の交流を深め、これまで参加していなかった人を巻き込む。

参加者同士がお互いの顔を見えるようにし、つながりの環を広げる。

### 2.5.2 開催概要

【基本コンセプト】安曇野の環境を知り、育み、伝える

～身近なことから取り組もう～

【テーマ】1「里山の保全」 2「エコライフ～生活スタイルの見直し～」

【主催】安曇野市、安曇野環境フェア 2015 実行委員会

【共催】安曇野環境市民ネットワーク

【日時】平成 27 年 10 月 10 日（土） 9:30～16:00

11 日（日） 9:00～16:00

【会場】安曇野市堀金総合体育館（安曇野市堀金烏川 2662）

【開催内容】

- パネル展示と体験コーナー（10日～11日）
  - ・ 市民団体、企業等による展示：計 74 団体・個人
  - ・ 企画展 1「里山の保全」 2「エコライフ～生活スタイルの見直し～」
- 環境活動発表会・小さな環境講座（11日）
  - ・ 発表：安曇野市地球温暖化防止活動推進協議会、あづみ太陽光発電研究会、GAC（株）・角藤（株）環境ソリューション室・明北小学校・明科中学校・エクセラン高等学校・ゴールドパック（株）・あずみ野工場・エクセラン高等学校・安曇野市協働のまちづくり出前講座）
- ホーボーズ・パペットシアター人形劇（10日～11日）
  - ・ 演目：3匹のコブタ（10日）、7匹の子やぎ（11日）
- 子ども広場（11日～12日）
  - ・ 段ボール迷路、積み木コーナー
- リサイクル自転車の展示・頒布（10日）
  - ・ 豊科リサイクルセンターで修理・再生された自転車の展示・頒布（抽選）

- 水で遊べるおもちゃづくり（10日～11日）
  - ・メインアリーナにて、水で遊べるおもちゃ作りの体験  
（講師：豊科郷土博物館 館長）
- 「緑のカーテン」写真展（10日～11日）
  - ・市内の住宅、事業所等に設置された「緑のカーテン」の写真展

**【同時開催】**

- 歌う海賊団ッ！ファミリーコンサート（10日）
  - ・船長率いる海賊団による、歌とダンスのライブコンサート  
（出演：歌う海賊団ッ）
- うちエコ診断（11日）
  - （主催：長野県地球温暖化防止活動促進センター）
- 触れる地球（11日）
  - ・直径1.28mの地球儀にリアルタイムに生きた地球の様子を映し出す  
（主催：長野県地球温暖化防止活動促進センター）
- 屋敷林見学会（11日）
  - ・ガイドの説明による会場周辺の屋敷林の見学  
（主催：屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト）
- 作品展示・表彰式（11日）
  - ・「三角島」スケッチコンテスト  
（主催：三角島ふるさとの森プロジェクト）

**【来場者数】**

10月10日（土）約1,000名

11日（日）約800名

2日間の合計 約1,800名

### 3 行動計画実施結果

#### 3.1 行動計画について

「安曇野市環境行動計画」（以下「行動計画」という。）は、安曇野市のよりよい環境づくりを目的として平成 20 年 3 月に策定した「安曇野市環境基本計画」（以下「基本計画」という。）の実現に向け、基本計画に盛り込まれた取り組みのうち、特に重点的・優先的におこなう必要のある項目をまとめたものです。

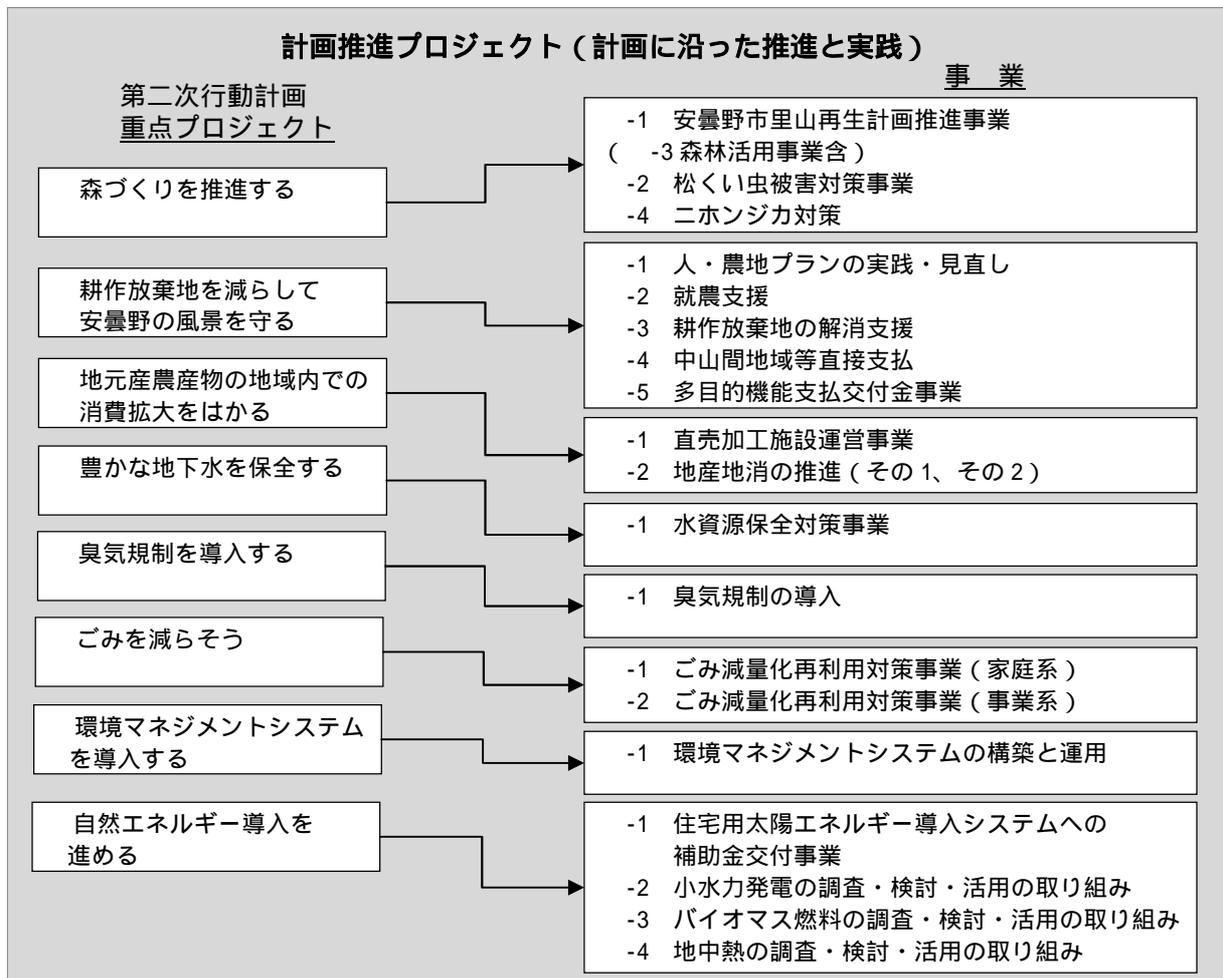
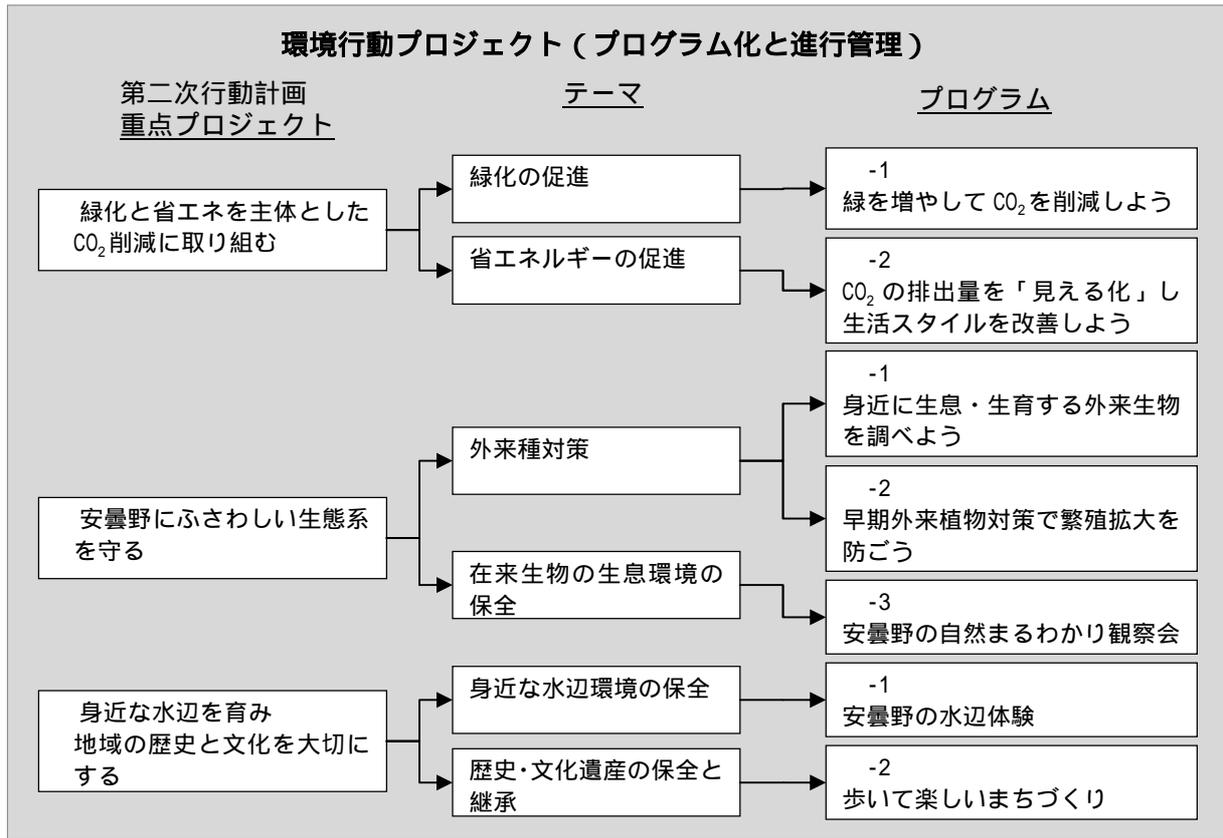
基本計画は、平成 20 年度を始期として平成 29 年度を目標年度としています。第二次行動計画は、このうちの後半にあたる平成 30 年度までに実現する項目を取り上げています。

そして、計画に従って取り組みを進めることを前提に、主体ごと、時期ごとにおこなうべき項目を可能な限り具体的に取り上げています。

#### 3.2 重点プロジェクトの一覧

今年度は、第二次環境行動計画で定められた「環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）」と、「計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）」の 2 つに区分にしたがって、「重点プロジェクト」を区分分けしました。

## 重点プロジェクト別実施プログラム・事業一覧



### 3.3 各重点プロジェクトの結果

以下、重点プロジェクトごとに平成 27 年度の取り組みの結果を示します。

～ 重点プロジェクト表の見方-1 ～

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書( 中間時 / **年度末時** )

#### ■プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	①：緑化と省エネを主体とした CO <sub>2</sub> 削減に取り組む
事業名	①-1 緑を増やして CO <sub>2</sub> を削減しよう
目的	・生活環境における緑化が、エネルギーの消費を低減し CO <sub>2</sub> 削減につながる効果について学び、緑化への取り組みを推進し、温暖化防止をはかる。
目標	・今年度の実施率を 35% とする
担当課・係	環境課 環境政策係

#### ■本年度の実績評価

業績評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	L2-B	
	80	○効果的だった取り組みや項目 ・市の管理施設での取り組みの実施 担当者から施設利用者へのアピールになっている、児童への環境教育の効果を果たしている、という声が寄せられた。 ・安曇野工業会での取り組みの実施 工業会会員に環境活動の一環として取り組んでいただき、写真展にも多数応募いただいた。 ・アンケートにより把握した市内各世帯における実施率は、35.2%と概ね目標を達成した。  ○不十分だった取り組みや項目、その要因 (取り組み・項目) ・写真展への応募件数、アンケートでの回答件数が少なかった。 (要因) ・推進会議、あづみ野風土会等関係団体への協力依頼が遅かった。 ・アンケートの形式、内容が煩雑な印象を与えた。
取組評価 (Check)	B	
進捗状況 (Check)	○	

※進捗状況⇒予定どおり……○、遅れている……×

#### ※平成 27 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	4		3			7
点数	400		180			580
					取組評価点数	83

※取組評価点数＝個別目標評価点合計／目標数（評価項目数）

※取組評価 A⇒(取組評価点数)90～100 点、取組評価 B⇒70～89 点、

取組評価 C⇒50～69 点、取組評価 D⇒30～49 点、取組評価 E⇒0～29 点

#### ■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○改善すべき取り組み・項目と修正点 ・取り組み世帯の増加のため、学校向け（各家庭数）に案内を配布するなど、新たな広報手段を検討する ・推進会議、あづみ野風土会など関係団体の参加協力は早期に依頼する ・アンケート形式、内容を簡素化し回答率の上昇を図る  ○課題や新たに設定すべき目標 ・(同上)
----------------	--

環境行動計画で  
立てた基本事項  
です。

個別プロジェクトに対する難易  
度と目標達成度  
で業績評価を  
求める。

個別プロジェクト  
取組状況に対  
する評価。

個別プロジェクトと環境行動計  
画(5 か年計画)  
との進捗状況の  
確認。

個別プロジェクト  
各取組評価を  
点数で集計し取  
組評価を求め  
る。

本年度の課題等  
を整理し、次年  
度に向けた改善  
点をまとめま  
す。

～ 重点プロジェクト表の見方-2 ～

■平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価*
●取り組みの広報（行政） ・緑のカーテンに関する広報	延べ 10回 以上	・講座開催の広報 （広報あづみの、市 HP、公共施設チラシ設置、環境市民 NW メール） ・公共施設実施募集 （庁内掲示） ・写真展開催の広報 （広報あづみの、市 HP、講座参加者宛、公共施設宛、環境フェアチラシ等計 3 種） ・写真展開催結果の広報 （市 HP、参加者宛）	延べ 14回	A
●取り組みの実施（行政） ・「緑のカーテン」講座の開催 講師：NPO 法人あづみ野風土舎、市民 NW、推進会議委員 演題：「緑のカーテン」の育て方、「緑化活動」の紹介、「夏の省エネ対策」など 「ゴーヤ苗」無料配布（行政）	5/23 30人 以上	・豊科交流学習センターにおいて予定通り実施。 30名参加。	5/24	A
・「緑のカーテン」アンケート実施 安曇野環境フェアで実施	10/10、 11 回答数 200件 以上	・環境フェア、推進会議で 実施 回答数 94 件	10/10、 11 11/18	C
・「緑のカーテン」写真展の募集（行政） 安曇野環境フェアでの展示	8/1 ～ 8/31 （募集） 10/10、 11 （展示） 40件 以上	・7/31～8/31（募集） ・10/10、11 （展示：安曇野環境フェア） ・18件展示		C
・市の管理施設等での 取り組みの実施	30箇所 500本 以上	・32箇所、552本 （ゴーヤ162本、 アサガオ390本）		A
●取り組みの実施（市民・事業者） ・「緑のカーテン」講座への参加	5/23 30人 以上	・30名参加	5/23	A
・「緑のカーテン」写真展への参加	8/1 ～ 8/31	・7/31～8/31（募集） ・10/10、11 （展示：安曇野環境フェア） ・18件展示		C

本年度当初に立てた計画とその結果です。結果は評価として記号で示します。

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C  
 定量-2：実施数量/目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E  
 定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

評価  
 ・定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C  
 ・定量-2：実施数量/目標数量×100= 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E  
 ・定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項 ( 担当 : 資源・エネルギーワーキンググループ、事務局 : 岡本 )

重点 PJ 名	: 緑化と省エネを主体とした CO <sub>2</sub> 削減に取り組む
事業名	-1 緑を増やして CO <sub>2</sub> を削減しよう
目的	・生活環境における緑化が、エネルギーの消費を低減し CO <sub>2</sub> 削減につながる効果について学び、緑化への取り組みを推進し、温暖化防止をはかる。
目標	・今年度の実施率を 35% とする
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

業績評価 ( Check )	【評価】	総合コメント
	L2-B	
<b>80</b>		
取組評価 ( Check )	<b>B</b>	
進捗状況 ( Check )	<b>○</b>	

進捗状況 予定どおり……○、遅れている……×

平成 27 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	4		3			7
点数	400		180			580
					取組評価点数	83

取組評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 ( 評価項目数 )

取組評価 A ( 取組評価点数 ) 90 ~ 100 点、取組評価 B 70 ~ 89 点、

取組評価 C 50 ~ 69 点、取組評価 D 30 ~ 49 点、取組評価 E 0 ~ 29 点

次年度への展望と課題など

改善 ( Action )	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み世帯の増加のため、学校向け ( 各家庭数 ) に案内を配布するなど、新たな広報手段を検討する</li> <li>・推進会議、あづみ野風土舎など関係団体の参加協力は早期に依頼する</li> <li>・アンケート形式、内容を簡素化し回答率の上昇を図る</li> </ul> <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「緑の基本計画」や「里山再生計画」など庁内他部署で運用されている計画の内容を研究し、緑のカーテン以外の緑化策や連携の余地について検討する</li> </ul>
------------------	---

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（行政）  ・緑のカーテンに関する広報 [定量-2]	延べ 10回 以上	・講座開催の広報 （広報あづみの、市 HP、公共施設チラシ設置、環境市民 NW メール） ・公共施設実施募集 （庁内掲示板） ・写真展開催の広報 （広報あづみの、市 HP、講座参加者宛、公共施設宛、環境フェアチラシ等計 3 種） ・写真展開催結果の広報 （市 HP、参加者宛）	延べ 14回	A
取り組みの実施（行政） ・「緑のカーテン」講座の開催 講師：NPO 法人あづみ野風土舎、市民 NW、推進会議委員 演題：「緑のカーテン」の育て方、「緑化活動」の紹介、「夏の省エネ対策」など 「ゴーヤ苗」無料配布（行政） [定量-2]	5/23 30人 以上	・豊科交流学習センターにおいて予定通り実施。 30名参加。	5/24	A
・「緑のカーテン」アンケート実施 安曇野環境フェアで実施 [定量-2]	10/10、 11 回答数 200件 以上	・環境フェア、推進会議で実施 回答数 94 件	10/10、 11 11/18	C
・「緑のカーテン」写真展の募集（行政） 安曇野環境フェアでの展示 [定量-2]	8/1 ~ 8/31 (募集) 10/10、 11 (展示) 40件 以上	・7/31～8/31（募集） ・10/10、11 （展示：安曇野環境フェア） ・18件展示		C
・市の管理施設等での 取り組みの実施 [定量-2]	30箇所 500本 以上	・32箇所、552本 （ゴーヤ 162本、アサガオ 390本）		A
取り組みの実施（市民・事業者） ・「緑のカーテン」講座への参加 [定量-2]	5/23 30人 以上	・30名参加	5/23	A
・「緑のカーテン」写真展への参加 [定量-2]	8/1 ~ 8/31 10/10、 11 (展示) 40件 以上	・7/31～8/31（募集） ・10/10、11 （展示：安曇野環境フェア） ・18件展示		C

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項 ( 担当 : 資源・エネルギーワーキンググループ、事務局 : 岡本 )

重点 PJ 名	: 緑化と省エネを主体とした CO <sub>2</sub> 削減に取り組む
事業名	-2 CO <sub>2</sub> 排出量を「見える化」し、生活スタイルを改善しよう
目的	・ CO <sub>2</sub> の排出量を「見える化」し、必要とするエネルギーの用途や代替手段を見直し、省エネルギーを促進させる。
目標	・ 公共施設の CO <sub>2</sub> 排出量を管理する。
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

業績評価 ( Check )	【評価】	総合コメント
	L2-A	
	<b>100</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業者向けの省エネ対策講演会 電力使用量の見直しなど具体的な省エネ対策の紹介があり、参加者からも実行に移したいという声が聞かれた。</li> <li>・ 公共施設に関連する CO<sub>2</sub> 排出量の管理 新本庁舎移行による把握漏れが無いよう庁内掲示板で周知、依頼した。</li> </ul>
取組評価 ( Check )	<b>A</b>	
進捗状況 ( Check )	<b>×</b>	<p>不十分だった取り組みや項目、その要因 ( 取り組み・項目 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共施設に関連する CO<sub>2</sub> 排出量の管理 ( 要因 )</li> </ul> <p>排出量は昨年度比で減少したものの、基準年度比では増加している。施設の新設、増改築時の増加分が大きいいため、増改築時の省エネ性能に対する配慮が十分でなかったことが懸念される。</p>

進捗状況 予定どおり……○、遅れている……×

平成 27 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	7	2				9
点数	700	160				860
					取組評価点数	96

取組評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 ( 評価項目数 )

取組評価 A ( 総合評価点数 ) 90 ~ 100 点、取組評価 B 70 ~ 89 点、

取組評価 C 50 ~ 69 点、取組評価 D 30 ~ 49 点、取組評価 E 0 ~ 29 点

次年度への展望と課題など

改善 ( Action )	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「環境家計簿」モニター数の増加に向け、新たな広報手段を検討する</li> <li>・ 身近なところから取り組むことができ、具体的で役に立つ手段を積極的に情報発信する</li> <li>・ 事業者アンケートの回答率が低かったため、早い時期に実施し、内容の見直しや回答期日に余裕を持たせることで、回答率上昇を図る。</li> </ul> <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共施設の CO<sub>2</sub> 排出量は基準年度比で増加している。施設の新設、増改築による増加分が大きい。今後、新設や増改築の際には十分な省エネ性能を満たすことが求められる。</li> </ul>
------------------	---

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（行政） ・CO <sub>2</sub> 排出量削減に関する広報 [定量-2]	延べ 10回 以上	・H26 排出量結果の広報 （広報あづみの、市 HP） ・講座開催の広報 （広報あづみの、市 HP、公共施設 チラシ設置、安曇野工業会及び商 工会依頼、事業者宛案内、エネッ トメール） ・「うちエコ診断」受信者募集 （環境家計簿モニター宛通知） ・H28 環境家計簿モニター募集 （広報あづみの 他複数予定）	延べ 10回	A
取り組みの実施（行政） ・「安曇野市地球温暖化対策行動計 画」の策定・推進 [定性]	通年	・策定のための WG を計 4 回 開催（12/2 時点）	6/25 8/11 9/28 12/2	A
・「安曇野市版環境家計簿」の実施 [定量-2]	登録 世帯数 80 件以上	・登録世帯数 81 件 ・安曇野環境フェアで 「うちエコ診断」実施 5 世帯受診	1/1～ 12/31 10/11	A
・事業者への温室効果ガス排出量 アンケートの実施 [定量-2]	8 月～ 回答率 60%以上	・安曇野工業会環境安全部会 での内容検討を依頼 ・1 月実施 回答率 41%	12/11 1/22	B
・事業団体への CO <sub>2</sub> 削減啓発 [定量-1]	10/1～	・工業会、商工会との 打ち合わせ ・商工会会員に 環境フェアチラシ配布依頼	8/21 8/31	A
・事業者向けの省エネ対策講演会 [定量-2]	年 1 回 以上	・11/9 実施 ・26 名参加	11/9	A
・公共施設に関連する CO <sub>2</sub> 排出量 の管理 [定量-2]	2 施設 以上	・H26 実績 7,294,254kg-CO <sub>2</sub> （基準年度比 2%増、前年度比 3.93%減） ・基準年度比 10%以上増加した 計 30 施設に増加要因を聞き取り	7/24	A
取り組みの実施（市民・事業者） ・安曇野市版環境家計簿への参加 [定量-2]	登録 世帯数 80 件以上	・登録世帯数 81 件 ・安曇野環境フェアで 「うちエコ診断」実施 5 世帯受診	1/1～ 12/31	A
・温室効果ガス排出量アンケート への参加 [定量-2]	4/1～ 3/31 回答率 60%以上	・安曇野工業会環境安全部会 での内容の検討 ・1 月実施 回答率 41%	12/11	B

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項 ( 担当 : 自然ワーキンググループ、事務局 : 中村 )

重点 PJ 名	: 安曇野にふさわしい生態系を守る
事業名	-1 身近に生息・生育する外来生物を調べよう
目的	・外来生物についての情報を広く発信し、外来生物に対する意識を高める ・外来生物の生息・生育状況を調査し、安曇野市に生息・生育する外来生物の実態を把握する。
目標	収集した外来生物の生息・生育情報を、地図などに整理して公表する。
担当課・係	環境課・環境政策係

本年度の実績評価

業績評価 ( Check )	【評価】	総合コメント
	L2-B	
	<b>80</b>	効果的だった取り組みや項目 ・特定外来生物駆除啓発チラシの全戸配布 情報提供件数が昨年度より 19 件増加したほか、生息箇所の土地所有者宅へ臨戸し駆除依頼を行う際にも、実物との対比が容易であるため、所有者自身による理解に繋がった。  不十分だった取り組みや項目、その要因 ・特定外来生物リポーター事業 ( 計画書旧名 外来生物モニター ) 自然観察会の参加者をターゲットとして、リポーターへの登録の依頼を行ったが、自然観察会への参加者が少なく、結果としてリポーター数の増加に繋がらなかった。 リポーターへの情報発信が不足・遅延したため、情報提供件数の増加に繋がらなかった。
取組評価 ( Check )	<b>B</b>	
進捗状況 ( Check )	<b>○</b>	

進捗状況 予定どおり……○、遅れている……×

平成 27 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	5	1	2			8
点数	500	80	120			700
					<b>取組評価点数</b>	<b>87</b>

取組評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 ( 評価項目数 )

取組評価 A ( 総合評価点数 ) 90 ~ 100 点、取組評価 B 70 ~ 89 点、

取組評価 C 50 ~ 69 点、取組評価 D 30 ~ 49 点、取組評価 E 0 ~ 29 点

次年度への展望と課題など

<b>改善 ( Action )</b>	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定外来生物リポーター事業の周知・協力 リポーターへのこまめな情報発信 ( 例 : 6 月上旬、アレチウリが芽生え始めています等 ) を行い、リポーターからの情報提供件数の増加につなげる。</li> </ul> <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然観察会への参加者増加 特定外来生物リポーターの登録者増加のためには、市が参加者へ直接呼びかけできる機会である「自然観察会」への参加者を増やすことが重要である。 - 3 安曇野の自然まるわかり観察会事業において、参加者増加に努める。</li> </ul>
--------------------------	---

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（主体：行政） ・特定外来生物（アフリカ、オキナワ、カカチヤ）について啓発チラシの全戸配布【定量-2】	1回	・市広報による周知(第209号)	6/17	A
・特定外来生物の生息・生育情報の提供依頼【定量-2】	3回	・各自然観察会及び自然学習会での呼びかけ ・出前講座での呼びかけ ・市広報による周知(第212号)	6/28 7/19 8/8 9/27 7/28 8/19	A
・特定外来生物の生息・生育情報の集計結果【定量-2】	2回	・市HPによる公開 ・区長会での報告	12/28 2/17 2/18 2/19 3/3	A
取り組みの実施（主体：行政） ・特定外来生物の生息・生育情報の収集【定量-2】	情報提供 100件	・市民・事業者からの情報提供件数 36件	随時	C
・マップの分析と対策検討【定性】		・大型河川管理者への依頼	3/7	A
・「外来生物モニター養成講座」の開催（アフリカ、オキナワ、カカチヤ）【定量-2】	3回	・第1回自然観察会 ・出前講座での呼びかけ	6/28 7/28	B
取り組みの実施（主体：市民・事業者） ・特定外来生物の生息・生育情報の提供【定量-2】	情報提供 100件	・市民・事業者からの情報提供件数 36件	随時	C
・「外来生物モニター養成講座」への参加【定量-2】	30人以上	・第1回自然観察会 13人 ・出前講座参加 40人	6/28 7/28	A

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項 ( 担当 : 自然ワーキンググループ、事務局 : 中村 )

重点 PJ 名	: 安曇野にふさわしい生態系を守る
事業名	-2 早期外来植物対策で繁殖拡大を防ごう
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期対策により、外来植物の侵入拡大を防ぐ</li> <li>・早期対策の効果を実感することにより、身近な外来種に対する取り組み意識が高まる。</li> <li>・生物多様性の保全がはかられる。</li> <li>・景観が向上し、住みよいまちづくりに繋がる。</li> </ul>
目標	モデル地区での駆除活動を実施し、結果をまとめる
担当課・係	環境課・環境政策係

本年度の実績評価

業績評価 ( Check )	【評価】 L2-B	総合コメント
	80	
取組評価 ( Check )	B	
進捗状況 ( Check )	×	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローンによる空中写真を撮影し、オオカワヂシャの生育箇所についてマッピングを行った。</li> </ul> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の取り組みに関する情報収集</li> <li>・特定外来生物 ( オオカワヂシャ ) の基準年度の被覆率の計測に不十分な点が見受けられたことが進捗状況に影響した。</li> </ul>

進捗状況 予定どおり……○、遅れている……×

平成 27 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	7	2	1	1		11
点数	700	160	60	40		960
					取組評価点数	87

取組評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 ( 評価項目数 )

取組評価 A ( 総合評価点数 ) 90 ~ 100 点、取組評価 B 70 ~ 89 点、

取組評価 C 50 ~ 69 点、取組評価 D 30 ~ 49 点、取組評価 E 0 ~ 29 点

次年度への展望と課題など

改善 ( Action )	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の取り組みに関する情報収集</li> </ul> <p>CO<sub>2</sub>削減に関する事業者アンケートの中で、その他の項目として「特定外来生物駆除」等の環境活動について照会するほか、環境フェア開催時に出展団体等へアンケートを行い、情報収集に努める。</p> <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な駆除活動の実施と継続的なモニタリングの実施。</li> </ul>
------------------	---

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（主体：行政） ・アレチウリなどの駆除について 【定量-2】	3 回	・市広報による周知(第 209 号) ・駆除啓発用ポスターの送付	6/17 6/25	B
・アレチウリなどの駆除結果報告 【定量-2】	2 回	・市ホームページ掲載 ・区長会での報告 (豊科 2/19 穂高 2/18 三郷 2/17 堀金 3/3 明科 2/18)	12/28	A
取り組みの実施（主体：行政） ・駆除研修会の実施 【定量-2】	3 回	・水辺マレットゴルフ場 (参加：区長・環境部長 32 名) ・黒沢川沿い (参加：三郷地域室町区 20 名) ・水辺マレットゴルフ場 (参加：事業者 83 名)	6/14 7/5 8/1	A
・区などの駆除の実施依頼 【定性】	3 回	・区長会での実施依頼 ・環境部長会議での実施依頼 (豊科 4/26 穂高 4/23 三郷 4/15 堀金 4/14 明科 4/16) ・市広報による周知(第 209 号) ・各区へ駆除啓発用ポスター を送付し、区施設へ掲示依頼	4/17 6/17 6/25	A
・駆除方法についての課題収集 (区長会など) 【定量-1】	1 回	・駆除実施行政区 50 区から アンケートを回収	9/7~ 11/12	A
・流域での対策について関係機関 と協議（河川沿い）【定量-2】	2 回	・安曇野建設事務所と協議 (黒沢川管理の協力依頼)	4/14 7/31	A
・モデル地区（穂高地域 三角島） でのアレチウリ、オオカワヂシャ 駆除作業の実施【定量-2】	3 回	・第 1 回自然観察会 ・三角島ふるさとの森 プロジェクト	6/28 8/9	B
取り組みの実施(主体：市民・事業者) ・アレチウリなど駆除の実施 【定量-2】	3 回	・行政区...57 区 7,175 名 ・ボランティア団体 ...2 団体 59 名 (市職員、三角島ふるさとの森 プロジェクト) ・事業者... 1 事業者 83 名 計 7,317 名による協力	6/7~ 9/23	A
・アレチウリなど駆除の課題報告 【定量-1】	1 回	・駆除実施行政区 50 区より 市アンケートへの回答あり	9/7~ 11/12	A
・事業者の取組の報告 【定量-2】	事業者数 10 社以上	・事業者からの報告 個別報告 1 社 アンケート回答 3 社 計 4 社	8/1 1/20	C

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項 ( 担当 : 自然ワーキンググループ、事務局 : 中村 )

重点 PJ 名	: 安曇野にふさわしい生態系を守る
事業名	-3 安曇野の自然まるわかり観察会
目的	・地元の自然環境の重要性を認識することにより、環境改善への意識の向上に繋がる。
目標	年間 3 回以上 ( 春・夏・秋 ) 以上の自然観察会または学習講座を開催する。
担当課・係	環境課・環境政策係

本年度の実績評価

業績評価 ( Check )	【評価】 L2-D	総合コメント  効果的だった取り組みや項目  不十分だった取り組みや項目、その要因 ・自然観察会への参加 企画内容の魅力が不足している。
	40	
取組評価 ( Check )	C	
進捗状況 ( Check )	○	

進捗状況 予定どおり……○、遅れている……×

平成 27 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	2	1	1	3		7
点数	200	80	60	120		460
					取組評価点数	65

取組評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 ( 評価項目数 )

取組評価 A ( 総合評価点数 ) 90 ~ 100 点、取組評価 B 70 ~ 89 点、

取組評価 C 50 ~ 69 点、取組評価 D 30 ~ 49 点、取組評価 E 0 ~ 29 点

次年度への展望と課題など

改善 ( Action )	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報チラシは、写真などを用いて中身をイメージしやすいものにするほか、チラシを読むだけでも勉強になるようなものへ意識を転換していく。</li> </ul> <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の子どもを連れて参加するのは保護者であることから、「自分の子どもを連れて行きたい」、「子どもにとってプラスだ」と思っただけのような企画を検討する。</li> </ul>
------------------	---

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（主体：行政）  ・参加募集について広報誌、ホームページへの掲載 <b>[定量-2]</b>	講座回数 ×3回	第1回 ・市広報による周知(第208号) ・安曇野エコプラン.net掲載 ・市民タイムス掲載（無料） ・あづみのFM放送（無料）  第2回 ・市広報による周知(第211号) ・安曇野エコプラン.net掲載 ・交流学习センターきぼうへのポスター・チラシ設置  第3回 ・市広報による周知(第213号)	6/3 6/15 6/24・30 6/26  7/22 8/3 8/3  9/2	<b>B</b>
・参加募集について小・中学校への案内 <b>[定量-2]</b>	講座回数 ×1回	第1回 ・小・中学校への配布  第2回 ・小学校への配布  第3回 ・小学校への配布	6/5  7/16  9/10	<b>A</b>
・自然観察会の結果広報 <b>[定量-1]</b>	講座回数 ×1回	・安曇野エコプラン.net掲載	3/8	<b>A</b>
取り組みの実施（主体：行政）  ・春の観察会 「身近にある外来種を知ろう」 <b>[定量-2]</b>	参加者 30人以上	・観察会実施 場所：穂高地域 三角島 講師：百瀬 剛 氏 参加者：13名	6/28	<b>C</b>
・夏の観察会 「渓谷の清冽な水辺の生き物たち」 <b>[定量-2]</b>	参加者 30人以上	・観察会実施 場所：堀金地域 烏川渓谷緑地 講師：市川 哲生 氏 参加者：4名	8/8	<b>D</b>
・秋の観察会 「けやきの森に生育する植物たち」 <b>[定量-2]</b>	参加者 30人以上	・観察会実施 場所：明科地域 けやきの森自然園 講師：横内 文人 氏 参加者：6名	9/27	<b>D</b>
取り組みの実施（主体：市民・事業者）  ・自然観察会への参加 <b>[定量-2]</b>	各講座 30人以上 の参加	・各観察会への参加	6/28 8/8 9/27	<b>D</b>

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項 ( 担当 : 景観・まちづくりワーキンググループ、事務局 : 深澤 )

重点 PJ 名	: 身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする
事業名	-1 安曇野の水辺体験
目的	安曇野市の水辺に慣れ親しむことにより、水辺環境の大切さを身近なものとして実感し、保全に繋げる。
目標	・年 3 回の親水イベントを実施する。
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

業績評価 ( Check )	【評価】	総合コメント
	L1-C	
	40	効果的だった取り組みや項目 ・ 烏川、拾ヶ堰などの観察会はバスを利用したことにより広範囲にわたり、身近な学習、観察ができた。 ・ 事前資料配布など効果的な講座開催ができた。 ・ 「水で遊べるおもちゃづくり」は環境フェアのなかでの企画のため多くの参加者があった。 ・ 新年度の企画に向けた検討が行われた。
取組評価 ( Check )	B	
進捗状況 ( Check )	○	
		不十分だった取り組みや項目 ・ 時間的な余裕がなくアンケート実施ができなかった。

進捗状況 予定どおり……○、遅れている……×

平成 27 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	8	4	2	2		16
点数	800	320	120	80		1,320
					取組評価点数	83

取組評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 ( 評価項目数 )

取組評価 A ( 取組評価点数 ) 90 ~ 100 点、取組評価 B 70 ~ 89 点、

取組評価 C 50 ~ 69 点、取組評価 D 30 ~ 49 点、取組評価 E 0 ~ 29 点

次年度への展望と課題など

改善 ( Action )	改善策 ・ 次回につながる効果的なアンケートの実施。 ・ 多くの参加者が見込める講座内容の企画立案。
------------------	--

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報(行政)  ・「親水イベント」参加者募集 (小学校への案内) 講座数×4回  ・「親水イベント」結果広報 講座数×4回  [定量2]	実施 1ヶ月前	・水辺環境講座「烏川の歴史と環境を探索」(6/20)	6/3 -	D
		・「名水サミット in 安曇野」(8/28・29)	5/18・7/9・7/21・7/24・7/22・12/	B
	実施 1ヶ月後	・水辺環境講座「拾ヶ堰の歴史と環境を探索」(9/5)	8/19 8/21	D
		・「水で遊べるおもちゃづくり」(10/10・11)	9/16・9/25・9/30・10/2 11/25	B
取り組みの実施(3回以上実施) ○烏川の水環境を調べる 参加者数 30人以上 [定量2]  「名水サミット in 安曇野」の開催 参加者数 600人以上 [定量2]  ○拾ヶ堰見学(講師:拾ヶ堰土地改良区) 参加者 30名以上[定量2]  ○環境フェアでの市郷土博物館の体験ブース出展等 参加者 30名以上 [定量2]  三角島 ・三角島ふるさとの森プロジェクトへの協力 講座回数×30名以上 [定量1] [定量2]	6/20	・水辺環境講座「烏川の歴史と環境を探索」開催 参加者数 25人	6/20	B
	8/28・29	・「名水サミット in 安曇野」の開催 参加者数 650人	8/28・29	A
	9/5	・水辺環境講座「拾ヶ堰の歴史と環境を探索」参加者25人	9/5	B
	10/12	・「水で遊べるおもちゃづくり」参加者 110人	10/10・11 (環境フェア)	A
	6月～9月	・アレチウリ駆除・草刈(8人・6人・8人参加)	7/4・8/2・9/6	A
		・三角島の自然を楽しむ集い 17人参加	8/9	C
・「親水イベント」への参加 [定量1][定量2]  「烏川」「拾ヶ堰」講座はバスの定員制限により募集 25人としたため「A」とした。	随時	・水辺環境講座「烏川の歴史と環境を探索」:25人参加	6/20	A
		・「名水サミット in 安曇野」:650人参加	8/28・29	A
		・水辺環境講座「拾ヶ堰の歴史と環境を探索」:25人参加	9/5	A
		・「水に関する遊具」の紹介: 110人参加	10/10・11	A
		・三角島アレチウリ駆除:8人・6人・8人参加	7/4・8/2 9/6	A
		・三角島の自然を楽しむ集い:17人参加	8/9	C

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項 ( 担当 : 景観・まちづくりワーキンググループ、事務局 : 深澤 )

重点 PJ 名	: 身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする
事業名	-2 歩いて楽しいまちづくり
目的	・市民が市内を歩いて身の回りの「いいところ」を知り、そのよさに共感する人々と交流し、楽しみながら守り育て、コミュニティや地域の活性化等を促す。
目標	・「いいところ」マップを作成する。 ・モデル地区で地区の方々と年間 1 回以上の取り組みを開催する。 ・プロジェクト中の STEP1「我が地区流」の活動案を作成する。
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

	【評価】	総合コメント
業績評価 ( Check )	L2-C	効果的だった取り組みや項目 ・全ての取り組みに企画の段階から地元の方、市民団体の方々が参加した。 ・新年度事業に向けた検討を重ねることができた。 不十分だった取り組みや項目 ・岩州公園の紹介が未実施となった。
	<b>60</b>	
取組評価 ( Check )	<b>B</b>	
進捗状況 ( Check )	<b>○</b>	

進捗状況 予定どおり……○、遅れている……×

平成 26 年度目標評価集計

	A 評価 (100 点)	B 評価 (80 点)	C 評価 (60 点)	D 評価 (40 点)	E 評価 (20 点)	計
取組数	8		4	3	1	16
点数	800		240	120	20	1,180
					取組評価点数	74

取組評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 ( 評価項目数 )

取組評価 A ( 取組評価点数 ) 90 ~ 100 点、取組評価 B 70 ~ 89 点、

取組評価 C 50 ~ 69 点、取組評価 D 30 ~ 49 点、取組評価 E 0 ~ 29 点

次年度への展望と課題など

改善 ( Action )	改善策 ・地元の方々が主体となって取り組む体制の構築が必要。
------------------	-----------------------------------

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報(行政) ・モデル地区での取り組みの紹介と参加者募集 各3回 [定量 2]	随時	・「旧篠ノ井線廃線敷ウォーキング」(5/30・10/25)	4/22	C
		・写真展の開催(ケヤキの森 6/28・環境フェア 10/10・11)	5/20	C
		・「潮沢水辺探検隊」の開催(7/19)	6/17	C
		・「けやきの森の仲間探し」(9/27)	8/5	C
・ホームページを活用した広報各1回 [定量 2]	随時	・Eコプラン.net に掲載(4回開催 内1回実施)	7/16	D
取り組みの実施(行政) 全般:モデル事業への参加者の拡大を図る ・健康づくりウォーキング 参加者数各 30 人 [定量 2]	5/30 10/25	・「旧篠ノ井線廃線敷ウォーキング」開催 31 名参加 27 名参加	5/30 10/25	A
	6/28	・写真展の開催(ケヤキの森)18 名出展	6/28	A
・写真展の開催(あやめ祭り、明科文化祭) [定性 1]	10/31 ~ 11/1	・写真展の開催(環境フェアでの展示) 文化祭場所無 来場者 1,800 人	10/10・11	
	ケヤキの森整備・活用 ・自然観察講座の開催(植物・生物) 参加者数各 30 人 [定量 2]	7/19 9/27	・「潮沢水辺探検隊」の開催 32 名	7/19
		・「けやきの森の仲間探し」開催 6 名	9/27	D
柏尾方面へのコースづくり [定量 1]	9 月 ~	・「旧篠ノ井線廃線敷ウォーキング」(10/25)開催時に作成	10/25	A
岩州公園の紹介 [定量 1]	9 月 ~	・未実施	-	E
取り組みの実施(市民・事業者) ・地元地区主体の事業に対して内容に応じて必要なサポートを行う ・市民団体・・・「楽しむ」から「受け継ぐ」過程の専門的分野での協力 ・市民団体と地元地区が協働して取り組めるような仕組みづくり (例:活動フィールドの情報提供等) 開催数×参加者数 30 人 [定性 1](写真展) [定量 2]	随時	・「旧篠ノ井線廃線敷ウォーキング」開催 31 名参加	5/30	A
		・写真展の開催(ケヤキの森)18 名出展	6/28	A
		・写真展の開催(環境フェア)来場者 1,800 人	10/10・11	A
		・「潮沢水辺探検隊」の開催 32 名参加	7/19	A
		・「けやきの森の仲間探し」開催 6 名	9/27	D
		・「旧篠ノ井線廃線敷ウォーキング」開催 27 名参加(他長野県から約10人参加) 計約40名	10/25	A

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	森づくりを推進する
事業名	-1 安曇野市里山再生計画推進事業【 -3 森林活用事業含む】
目的	1) 多種多様な環境から成り立つ里山 2) 多くの人々が里山を資源として利用 3) 災害の少ない安全な暮らしをもたらす里山
目標	1) 燃料などの木質バイオマス利用 2) 建築用材としての安曇野材利用 3) 里山学校の開設・運営 4) 松枯れ・鳥獣被害対策の市民参加型企画の立案と運営 5) 松枯れ予防対策の実践
担当課・係	耕地林務課 林務担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
1) 燃料などの木質バイオマス利用 ・プロジェクトの立ち上げ ・活動計画作成 ・活動拠点の確保 [定量-1]	通年	里山について考えよう！ 市民等約 60 名参加 里山再生計画推進協議会 プロジェクト準備会 活動内容及び活動拠点 の検討 さとぶる。スタートアップ ミーティング 50 名参加	8 月 22 日 9 月 29 日 2 月 16 日 3 月 6 日	A
2) 建築用材としての安曇野材利用 ・プロジェクトの立ち上げ ・活動計画作成 [定量-1]	通年	里山について考えよう！ 市民等約 60 名参加 里山再生計画推進協議会 プロジェクト準備会 安曇野材の流通の仕組み 安曇野材の独自の使い方 さとぶる。スタートアップ ミーティング 50 名参加	8 月 22 日 9 月 29 日 11 月 9 日 12 月 2 日 1 月 12 日 3 月 6 日	A
3) 里山学校の開設・運営 ・事務局の立ち上げ ・運営計画作成 ・デモ開校 [定量-1]	通年	里山について考えよう！ 市民等約 60 名参加 里山再生計画推進協議会 プロジェクト準備会  さとぶる。スタートアップ ミーティング 50 名参加	8 月 22 日 9 月 29 日 11 月 25 日 1 月 28 日 2 月 20 日 3 月 6 日	A
・森林（もり）の里親促進制度・・・契 約件数 2 件 [定量-2]		森林の里親促進事業  ・森倶楽部 21・コブ ながの( 市 は協力者として活動支援)  ・GE 富士電機メーター(株) ( 支援金 60 万円、5 年契約社 員による森林整備)	4 月 26 日 5 月 30 日	A

<p>・みどりの少年団活動・・・小学校6校、 中学校2校の活動 [定量-1]</p>		<p>みどりの少年団活動補助 ・豊科南小学校 ・穂高北小学校 ・堀金中学校 ・穂高南小学校 ・明北小学校 ・穂高西中学校</p> <p>交流集会への参加 (6校 豊科南小、穂高南小、 穂高北小、堀金小、明北小、 穂高西中、生徒児童47名 引 率10名) 穂高南小学校・穂高北小学 校・豊科南小学校活動発表 プランターづくり、マイ箸づ くり、クイズラリー</p>	<p>4月～3月       7月31日</p>	<p>A</p>
<p>・学有林活動・・・小学校6校、 中学校2校の活動 [定量-1]</p>		<p>松島中学校実施 1年生 130名 下草刈り払い プランターカバーづくり 松くい被害木伐採作業見学 明科中学校事前学習 松くい虫被害について 穂高西中学校実施 ヒノキ間伐作業</p>	<p>5月8日  5月22日  5月27日</p>	<p>A</p>
<p>4) 松枯れ・鳥獣被害対策の市民参 加型企画の立案と運営 ・現況調査 ・イベントの企画 [定量-1]</p>	<p>通年</p>	<p>里山について考えよう！ 市民等約60名参加 里山再生計画推進協議会 プロジェクト準備会</p> <p>さとぶる。スタートアップ ミーティング50名参加</p>	<p>8月22日 9月29日 11月30日 1月13日 2月2日  3月6日</p>	<p>A</p>
<p>5) 松枯れ予防対策の実践 ・被害状況の現状調査 ・活動計画の作成 ・所有者への説明及び合意形成 [定量-1]</p>	<p>通年</p>	<p>里山について考えよう！ 市民等約60名参加 里山再生計画推進協議会 さとぶる。スタートアップ ミーティング50名参加</p>	<p>8月22日 9月29日 3月6日</p>	<p>A</p>

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 安曇野市里山再生計画策定事業 ( -3 森林活用事業 含)

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期 (4~12月)	後期 (1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山再生計画推進協議会の設置</li> <li>・里山について考えるワークショップの開催</li> <li>・さとふる。通信の発行(月1回発行)</li> <li>・5つの具体的プロジェクトでの検討</li> <li>・各種イベントの開催、参加</li> <li>・里山再生サポーターの募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 木質バイオマスPJの実施 2月16日 薪づくりの拠点づくり</li> <li>2) 安曇野材利用促進PJの実施 11月9日、12月2日、1月12日 安曇野材の流通の仕組みの構築</li> <li>3) 里山学校PJの実施 11月25日、1月28日、2月20日 里山学校の実施内容の検討</li> <li>4) 里山保全・体験学習PJの実施 11月30日、1月13日、2月2日</li> <li>・全体の取組として、5つのプロジェクトの進捗を報告する「お披露目会」を3月6日に実施し、今後の進め方を考えた。</li> </ul>	
不十分だった取り組みや項目		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山再生計画推進に向けた全体の活動については動き出しているが、目標する5つの具体的な取組活動まで進展できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各プロジェクトで検討を進め、具体的な活動計画を検討してきたが、平成27年度中に活動実施まで繋がらなかった。</li> </ul>	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期 (4~12月)	後期 (1~3月)
	改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山再生サポーターを含めた多くの市に情報を発信し、多くの人に関わってもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各プロジェクトで検討してきた今期の内容を、次期に実施する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山学校のデモ開校について、一部遅延が見受けられるので、平成28年度で早期対応されたい。(委員)</li> <li>・松枯れ予防対策の実践で、所有者への合意形成ができないことがあったとの報告だが、理解を得ることは大変な業務である。引き続き鋭意努められたい。(委員)</li> </ul>		

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	森づくりを推進する
事業名	-2 松くい虫被害対策事業
目的	松くい虫による被害木を最小限にするため、予防と防除対策及び松の保護育成を実施し、森林の多面的機能の発揮を促す。
目標	被害木伐倒駆除 5,500 m <sup>3</sup> 予防薬剤散布 35.5ha
担当課・係	耕地林務課 林務担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価
被害木伐倒駆除事業 ( 補助事業 ) [ 定量-2 ]	5,000 m <sup>3</sup>	伐倒駆除 ( 補助事業 ) 5,820 m <sup>3</sup> ( 達成率 116.4% )	4月～3月	A
被害木伐倒駆除事業 ( 市単事業 ) [ 定量-2 ]	500 m <sup>3</sup>	伐倒駆除 ( 市単事業 ) 1,775 m <sup>3</sup> ( 達成率 355% )	4月～3月	A
予防薬剤散布 ・地上散布 ・特別防除 ・無人ヘリ [ 定量-2 ]	35.5ha	予防薬剤散布 ・地上散布 5.5ha ・特別防除 5.0ha ・無人ヘリ 25.0ha 計 35.5ha ( 達成率 100% )	6/15、7/15 6/19 6/19、/13	A

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -2 松くい虫被害対策事業

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	・被害木伐倒駆除実施 (補助事業 4,016 m <sup>3</sup> + 市単事業 723 m <sup>3</sup> ) / 5,500 m <sup>3</sup> × 100 = 87.8% ・予防薬剤散布 35.5ha / 35.5ha × 100 = 100%	・被害木伐倒駆除実施 (補助事業 5,820 m <sup>3</sup> + 市単事業 1,775 m <sup>3</sup> ) / 5,500 m <sup>3</sup> × 100 = 138% ・予防薬剤散布(6月から7月実施) 35.5ha / 35.5ha × 100 = 100%
	不十分だった取り組みや項目	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	○改善策	
	・被害木伐倒駆除を随時発注する。 補助事業 4,000 m <sup>3</sup> 、市単事業 250 m <sup>3</sup> 最終駆除量 約 5,500 m <sup>3</sup>	・被害木伐倒駆除を随時発注する。 補助事業 1,000 m <sup>3</sup> 、市単事業 250 m <sup>3</sup> 。

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	森づくりを推進する
事業名	-4 ニホンジカ対策
目的	農林業被害の軽減、自然環境への影響の軽減、個体数の削減・地域個体群の安定的な維持。
目標	捕獲目標 360 頭 (内訳：個体数調整 120 頭、狩猟 240 頭)
担当課・係	耕地林務課 林務担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	目標	結果	実施日	点検・評価
有害獣捕獲 (個体数調整) ・ 猟期以外を市猟友会へ委託 [定量-2]	120 頭	有害獣捕獲 (個体数調整) 実施 137 頭	通年	A
狩猟による捕獲 (11/15 ~ 翌年 2/15) [定量-2]	240 頭	銃猟期間 11/15 ~ 2/15 罾猟期間 11/15 ~ 3/15 捕獲頭数は、猟期終了後に 狩猟者が県に提出する狩 猟報告書を県で取りまと めた後、県から報告を受け る。 オス 75 頭 メス 145 頭 計 220 頭	11/15 ~ 3/15	A

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -4 ニホンジカ対策

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	・西山でのシカ生息地域調査を、県が主体となり実施した。	・個体数調整期間外。 ・狩猟実績は6月に県からの報告を受ける。
	不十分だった取り組みや項目、その要因	
	・個体数調整による捕獲数 捕獲頭数 94 頭	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	○改善策	
	<p>・今年度県が実施した調査結果に有害鳥獣捕獲のデータを重ね、県及び猟友会との連携により次年度の捕獲を進める。</p> <p>・狩猟による捕獲は個人の意思により行われ、個体数減少に向けた捕獲目標に適していないため、次年度は項目を削除する。</p> <p>・捕獲した個体の有効利用(角・鹿肉)について、良い手段やアイデアなどがないか検討していただきたい。(委員)</p>	

プロジェクトの基本事項

重点PJ名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-1 人・農地プランの作成
目的	農地の担い手等を明確にして農地の計画的な集積を図る。
目標	認定農業者の確保・育成・・・295 経営体 集落営農組織の設立支援・・・31 組織 担い手への農地集積・・・54.0%
担当課・係	農政課集落支援担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
各プランの実践 (個々の経営体の意向に沿った農地の流動化等) [定量-1] [定量-2]	通年	○プランの見直しの実施 (14 プランを 5 地域別に)  ・認定農業者数:264 経営体 (達成率 89.5%) ・集落営農組織数:26 組織 (達成率 83.9%) ・担い手への農地集積 :52.6% (達成率 97.4%) 前年度末は 53.4%集積	3 月上旬  通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1人・農地プランの作成

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	・全農家を対象とした「農地貸付け希望調査」の実施。 ・三郷地域における集落営農組織の設立支援。	・三郷地域における集落営農組織の設立支援。 ・果樹農家を対象とした経営意向調査の実施。
	不十分だった取り組みや項目	
	・果樹農家を対象とした経営意向調査。	・果樹農家を対象とした経営意向調査結果のとりまとめ。

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	前期(1~3月)
	○改善策	
	・遅れている果樹農家を対象とした経営意向調査を早急の実施し、円滑な農地の移行に繋げる。	・果樹農家の経営意向調査結果をもとに、関係機関と今後の方向性などを協議する。

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-2 就農支援
目的	国や市独自の給付金制度等により、次世代の農業の担い手や後継者づくりを進める。
目標	新規就農者の確保・育成・・・10 人/年
担当課・係	農政課集落支援担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
就農支援室(市再生協)による相談窓口業務の実施 [定量-1]	通年	市農政課で受けた面談による相談件数 35 件	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
青年就農給付金事業 (国からの就農支援金 @150 万円/年・最長 5 年) [定量-1]	通年	交付対象者 15 人	通年	
安曇野市親元就農促進事業 (機械等取得補助金 3/10 以内、就農支援金@20 万円/年・最長 5 年) [定量-1]	通年	・機械等取得補助金 交付決定件数 6 件 交付決定額 4,712 千円 ・就農支援金 交付対象者 41 人	通年	
[定量-2]		新規就農者の確保・育成・・・10 人		

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -2 就農支援

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	・安曇野市農業後継者交流会による情報交換及び営農意欲の向上。	・就農支援相談室による就農相談。
	不十分だった取り組みや項目	
	・就農希望者の意向に沿った農地情報の収集及び提供。	・就農希望者の意向に沿った農地情報の収集及び提供。

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善策	
・12月に実施した「農地貸付け希望調査」の活用による就農地の確保を支援する。	・12月に実施した「農地貸付け希望調査」の活用による就農地の確保を支援する。	

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-3 耕作放棄地の解消支援
目的	耕作放棄地の再生作業に対する補助事業の活用を推進し、新たな発生を防ぐ。
目標	耕作放棄地全体面積・・・42.2ha
担当課・係	農政課集落支援担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
・耕作放棄地再生利用対策の推進【国】 (農作物の生産再開に向けた条件整備に対する補助金の交付) [定量 1]	通年	交付対象件数 7 件 再生利用面積 33,200 m <sup>2</sup>	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
・荒廃農地解消就農者支援制度の推進【市】 (一定規模の解消を行う農業者への支援金) (100 万円を 5 年分割交付) [定量 1]	通年	交付対象者 6 人 解消決定面積 20,949 m <sup>2</sup>	通年	
・荒廃農地再生作業機械貸出事業【市再生協】 (歩行型草刈機の貸出等) [定量 1]	通年	貸出件数 48 件 活用面積 116,670 m <sup>2</sup>	通年	
・荒廃農地発生防止・再生支援事業【市再生協】 (耕作条件不利農地や耕作放棄地に適した作物の栽培検証) [定量 1]	通年	ブルーベリー、ニンニクの栽培検証	通年	
・荒廃農地解消に向けた取り組みに対する市独自の補助制度の推進および確立 [定量 1]	通年	荒廃農地解消者(団体・個人)への市農業再生協議会を通じた補助制度の推進	通年	
[定量 2]		耕作放棄地全体面積・・・57.5ha		

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -3 耕作放棄地の解消支援

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	・国の推進事業や、市単の解消支援制度を活用した耕作放棄地解消支援の推進。	・国の推進事業や、市単の解消支援制度を活用した耕作放棄地解消支援の推進を図るとともに、市農業再生協議会を通じ、国の交付金を活用し再生作業を実施した個人への補完支援金補助を行った。
	不十分だった取り組みや項目、その要因	
・点在する耕作放棄地の解消支援。	・担い手不足や高齢化などから、点在化し発生する耕作放棄地の解消支援への取り組み。	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	後期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善策	
・団地化および点在し発生する耕作放棄地を含め、関係部署や関係機関と連携し、解消支援に努める。	・団地化および点在し発生する耕作放棄地を含め、関係部署や関係機関と連携し、継続し解消支援に努める。	

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-4 中山間地域等直接支払
目的	農業生産条件が不利な状況にある地域における、農地・農村機能の維持と生産性の継続。
目標	農作物の作付率・・・89.0%
担当課・係	農政課集落支援担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
・中山間地域等直接支払交付金 (15 集落・約 85ha の活動に対する 国・県・市からの交付金) [定量 1]	通年	交付決定集落 11 集落 交付決定額 14,818,462 円 交付対象面積 85.9ha	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて 点検・評価
・安曇野市中山間地域農業直接支払事業 (上記の対象とならない 3 集落・約 15ha の活動に対する市単交付金) [定量 1]	通年	交付決定集落 4 集落 交付決定額 2,542,154 円 交付対象面積 24.2ha	通年	
[定量 2]		農作物の作付率・・・97%		

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -4 中山間地域等直接支払

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度より、第4期対策(H27~H31年度)へ移行し、集落協定に向けた締結及び協働による現地確認の実施</li> <li>・国の中山間直接支払制度の対象とならない集落における、市単による取組支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落協定(11集落)に基づく、国・県および市における支援の実施(約85ha)</li> <li>・農業振興地域外(白地)で、国の協定に準じて取組む集落(4集落)への市単支援の実施。(約24ha)</li> </ul>
	不十分だった取り組みや項目、その要因	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落協定(5年間)に基づく取組内容への支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落協定(5年間)に基づく取組内容への支援。 交付金の確定。</li> </ul>

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-5 多目的機能支払交付金事業 (旧 農地・水保全管理支払交付金事業)
目的	農地の多面的機能の維持等を図るため、農業者が共同して取り組む地域活動や、農業用水路・農道等の維持補修への活動に支援する。
目標	活動組織の数 50 組織 取り組み率 35% (面積 2,150ha)
担当課・係	耕地林務課 耕地担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
多面的機能 (農業用水路・農道の草刈り、泥上げ、砂利補充等) を支える組織の拡充を図る。  【H26 組織数】 43 組織 [定量-2]	50 組織	区などの単位から、営農組織や土地改良区などに取り組みできる要件緩和により、組織の拡充が図れた。  ・組織数 48 組織	4月～3月	A
遊休荒廃地の未然防止や農道・水路敷き等の草刈り作業を実施し、安曇野の風景や景観を守る。  【H26 取組状況】 ・取り組み面積 1,650ha ・農振農用地面積 6,148ha ・取り組み率 27% [定量-2]	35%	新規組織の土地改良区などの取組みもあり大幅な規模拡大が図ることができ、農業者や地域住民によって安曇野の風景や景観の保全が図れている。  ・取組面積 約 2,630ha (増 980ha) ・取り組み率 43%	4月～3月	A

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -5 農地・水保全管理支払交付金事業

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的機能支払事業の出前講座を行うことで、目標の50組織に至る事ができなかったが、今年度3組織増加して48組織が事業に参画された。</li> <li>・目標とする組織数は若干下回ったが、取組面積は、目標面積より480ha増加し、取組面積が2,630haとなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とする組織数は若干下回ったが、取組面積は、目標面積より480ha増加し、取組面積が2,630haとなった。</li> <li>・今年度は、大幅な規模拡大が図ることができ、農業者や地域住民の活動により安曇野の田園風景や景観の保全が図られている。</li> </ul>	
不十分だった取り組みや項目		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・区長会や営農懇談会等に事業に係る情報提供を行っている。</li> <li>・組織化されていない地域役員に出向き事業説明や参画に向けた働きかけを行う。</li> </ul> <p>= 参考 =</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□活動組織の数 (計画)50組織(実績)48組織</li> <li>□取り組み率 (計画)35%(実績)43%</li> <li>《農振面積》6,140ha (計画)面積2,150ha(実績)2,630ha</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期と同様な働きかけを行う。</li> </ul>	

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
事業名	-1 直売加工施設運営事業
目的	直売所の運営による地域農業の活性化。
目標	直売所での売り上げの増加・・・13 億 1400 万円 参加農家の確保・・・550 戸
担当課・係	農政課マーケティング係

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
現在の直売所売上げは、増加傾向ではないが目標の 13.14 億円に近づくよう、各直売所でのイベントを実施させ取り組みたい。 [定量-2]	通年	1,542,717 千円 (4~3月) 達成率 117.4%	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
市内直売所に対し、農家の確保と開拓説明会を実施してもらい、参加農家数を増やす。 (目標 550 戸) [定量-2]	通年	758 人 目標設定戸数からみた 達成率 138%	通年	

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 直売加工施設運営事業

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の旬な時期や収穫に合わせ、各直売所で販売イベントを実施している。</li> <li>・生産農家については、各年初めに各直売所ごとで説明会を実施して出荷農家の確保を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の旬な時期や収穫に合わせ、各直売所で販売イベントを実施している。</li> <li>・各直売所において決算時期になっているため、今後の売上目標を定めながら、出荷農家の確保の説明会を行っている。</li> </ul>
	不十分だった取り組みや項目	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各直売所の売上については、各直売所で売り上げ目標をたて売上向上に向けた取り組みを行っている。しかし、市直売所連絡協議会で連携したイベント取り組みは年1回ほどに留まっているため、今後の改善課題としていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市直売所連絡協議会を通じ、各直売所の連携イベントを考えてもらう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外での消費拡大に向けて、パッケージングの際に、安曇野産と分かるように農産物キャラクターの有効利用について検討していただきたい。(委員)</li> </ul>		

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
事業名	-2 地産地消の推進 ( その 1 )
目的	学校給食における、地元食材 ( 県内産 ) の使用率向上。
目標	使用率 100% を維持・・・100% 域産豚肉の使用率の増加・・・10%
担当課・係	農政課マーケティング係

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
お米は、現在の使用率を維持する他に、学校給食等での使用頻度を増やす。 [定量-1]	通年	安曇野市学校給食センターと協力しながら、米飯給食の頻度を増やすようにしている。 詳細は、 -2 地産地消の推進 ( その 2 ) を参照。	安曇野の日 ( 毎月 19 日が基本 )	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
地域産豚肉の使用及び増加へ繋がるようにはかる。 [定量-1]		給食で仕入れする豚肉の殆どが「長野県産 100%」と表示されている。( 別注文において安曇野産と指定 )  H27 は約 10%。 ( 前回 8% )		

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -2 地産地消の推進（その1）

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期（4～12月）	後期（1～3月）
	効果的だった取り組みや項目	
	・学校給食で、新品種米「風さやか」を使用してもらえるように、学校給食担当者と生産農家との契約時に立ち合い、農家と消費拡大事業に取り組んだ。	・学校給食で、新品種米「風さやか」を使用してもらえるように、学校給食担当者と生産農家との契約時に立ち合い、農家と消費拡大事業に取り組んだ。
	不十分だった取り組みや項目	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期（4～12月）	後期（1～3月）
	改善策	
	後期についても引き続き地元農産物の地域内での消費拡大をはかり、目標数値を上回るように事業を実施していく。	次年度についても引き続き地元農産物の地域内での消費拡大をはかり、目標数値を上回るように事業を実施していく。

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
事業名	-2 地産地消の推進 ( その 2 )
目的	学校給食における、地元食材 ( 県内産 ) の使用率向上。
目標	「安曇野の日」【月 1 回】及び「ご飯の日」【年 30 回】の実施回数・・・42 回/年
担当課・係	学校教育課学校給食担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
<p>安曇野の旬の食材を多く使う「安曇野の日」(毎月19日を基本)を月1回実施。 また、基本週3回の米飯給食の実施日に加え、麺類・パンの給食日から米飯給食に年間30回を振替えて安曇野の米の消費を増やす。 [定量-2]</p>	通年	<p>安曇野の日毎月実施中。 米飯給食は年間30回増やす予定で取り組んでおり、週約3.5日の実施となっている。</p>	<p>安曇野の日(毎月19日を基本に実施) 米飯給食は予定通り実施できた。</p>	A

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -2 地産地消の推進（その2）

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期（4～12月）	後期（1～3月）
	効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定通り米飯給食回数を実施。</li> <li>・ 安曇野の予定通りの実施。</li> <li>・ 「コシヒカリ」の一部を奨励品種の市内産「風さやか」を増やして使用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3学期についても予定通り実施。</li> </ul>
	不十分だった取り組みや項目	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期（4～12月）	後期（1～3月）
	改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度通り実施していく。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米飯だけでなく、米粉パンなど「お米」を使ったレパートリーが増えればなお良い。（委員）</li> <li>・ 米や豚肉以外にも、安曇野産のりんごや玉ねぎというように、今後品目を増やしていく方向になれば良い。（委員）</li> </ul>	

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 豊かな地下水を保全する
事業名	-1 水資源保全対策事業
目的	安曇野の水資源の保全、涵養、適正利用。
目標	転作田湛水面積・・・40ha
担当課・係	環境課環境保全担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
地下水保全条例の運用 ・新規地下水採取者届出 ・地下水採取量年次報告 [定量-1]	通年 5月末	採取者届 8件 事前協議 1件	4月～	
地下水モニタリング (地下水・湧水・わさび田の水位 測定、地下水の水質検査) [定量-1]	通年	水位測定 地下水 8ヶ所 湧水 2ヶ所 わさび田 2ヶ所  水質検査 井戸 28ヶ所	4月～	
地下水資源強化 ・転作田湛水40h [定量-2]	7～ 9月	38.33ha(24農家) 推計涵養量 80.5万t	7～9月	
水環境基本計画の検討 [定量-1]	通年	策定委員会の開催	6月22日 12月21日 3月14日	

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 水資源保全対策事業

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容説明会 4月 8日</li> <li>申請書提出期限 5月22日</li> <li>実施者対象説明会 6月16日</li> <li>実施実績7~9月 38.33ha</li> <li>事業報告会 11月19日</li> </ul> <p>・麦の収穫作業が6月中旬~下旬のため、当初説明会を4月上旬の開催することで、スムーズな事業実施ができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度事業内容説明会の開催通知を認定農業者及び集落営農組合に 3月 11 日に発送した。</li> <li>(平成 28 年度目標面積、60ha。)</li> </ul>
不十分だった取組や項目		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標面積に達しなかった。</li> </ul>	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業効果の検証が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業効果の検証が必要。</li> </ul>	

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 臭気規制を導入する
事業名	-1 臭気規制の導入
目的	悪臭防止法に基づく臭気規制の導入
目標	臭気規制導入に伴う悪臭防止法の適正な運用
担当課・係	環境課環境保全担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
悪臭防止法に基づく臭気指数規制の告示 [定量-1]	3/31	3月31日告示 (10月1日施行)	3月31日	
悪臭防止法に基づく臭気指数規制の施行 [定量-1]	10/1	広報紙、ホームページにより広報を行い、10月1日から施行	10月1日	
悪臭防止法に基づく適正な指導 [定量-1]	随時	状況の確認をするとともに、関係部署(農政課等)と連絡を取りつつ、必要に応じて臭気指数測定を行い、事業者へ臭気軽減対策を指導していく  臭気指数測定の実施2回 改善計画書作成指導2件	10/1~	
運用状況の環境審議会への報告 [定量-1]	随時	平成27年度 第2回環境審議会へ報告	2月9日	

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 臭気規制の導入

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月1日からの施行により、事業者の臭気に対する意識が新たになった。</li> <li>悪臭低減のための改善計画の作成を指導することができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臭気低減対策が必要な事業者に対して、臭気対策技術支援業務による現地調査を行い、事業者が作成する改善計画の内容について、提案を行った。</li> </ul>
	不十分だった取り組みや項目	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善計画が提出された場合の内容のチェック。(対策による効果の有効性と実現性など。)</li> <li>・改善対策の進捗管理の方法。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善計画が提出された場合の内容のチェック。(対策による効果の有効性と実現性など。)</li> <li>・改善対策の進捗管理の方法。</li> </ul>

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点PJ名	: ごみを減らそう
事業名	-1 ごみ減量化再利用対策事業 ( 家庭系 )
目的	家庭系一般廃棄物の減量・資源化。
目標	家庭系ごみ排出量 ( 市民 1 人 1 日当たり ) … 511 g リサイクル率 … 30.3%
担当課・係	廃棄物対策課廃棄物対策担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
ごみの適正分別指導・啓発 [定量-1]	通年	5 地域毎の環境部長会議を開催 環境部長視察研修会 ( 資源化 ) を開催 広報紙による、ごみ減量・資源化の啓発 ごみカレンダー配布	4 月 11 月 通年 2~3 月	A
生ごみ処理機器等購入費補助金 交付事業 [定量-2]	通年	交付決定件数 103 件 交付決定額 1,681 千円 ( 執行率 58% )	通年	C
緑のリサイクル事業 [定量-1]	4 月 ~ 11 月	5 か所に排出置き場を設け、チップ化処理と市民への提供を行った。 処理量 : 123,476 kg	作業日数 述べ 75 日	A
使用済み小型家電回収事業 [定量-1]	通年	ボックス回収を庁舎・支所・大型店舗で継続、豊科リサイクルセンター・穂高リサイクルセンターに加え、明科ストックヤードでも全品回収を開始した。 回収量 : 52,100 kg 売却額 : 523,173 円	通年	A
[定量-2]	家庭系 ごみ排 出量 511g  リサイ クル率 30.3%	家庭系ごみ排出量 ( 市民 1 人 1 日当たり ) … 485 g  リサイクル率 … 20.9%		A  B

定量-1 : 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2 : 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性 : 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 ごみ減量化再利用対策事業（家庭系）

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期（4～12月）	後期（1～3月）
	効果的だった取り組みや項目	
	・使用済み小型家電回収事業 ボックス回収を庁舎・支所・大型店舗で継続、豊科リサイクルセンター・穂高リサイクルセンターに加え、明科ストックヤードでも全品回収を開始した。 回収量：41,500 kg（前年比 49%増） （12月末現在）	・使用済み小型家電回収事業 ボックス回収を庁舎・支所・大型店舗で継続、豊科リサイクルセンター・穂高リサイクルセンターに加え、明科ストックヤードでも全品回収を開始した。 回収量：52,100 kg（前年比 40%増）
	不十分だった取り組みや項目	
・生ごみ処理機器等購入費補助金交付事業 予算額に対する執行率が 49%と低い。 （12月末現在。）	・生ごみ処理機器等購入費補助金交付事業 予算額に対する執行率が 58%と低い。 （補助金額で前年比 51%減。）	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期（4～12月）	後期（1～3月）
	改善点	
・生ごみ処理機器等購入費補助金交付事業 来年度以降利用者が増加するような方法（昨年度は利用者アンケートを実施し、結果を公表した。）を検討する。	・生ごみ処理機器等購入費補助金交付事業 来年度以降利用者が増加するような方法を検討する。	
・排出量、リサイクル率ともに目標達成に至らなかった要因を分析し、減量につながるような広報活動を展開していくべき。（委員）		

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: ごみを減らそう
事業名	-2 ごみ減量化再利用対策事業 ( 事業系 )
目的	事業系一般廃棄物の減量・資源化。
目標	事業系可燃ごみ排出量・・・8,038t
担当課・係	廃棄物対策課廃棄物対策担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
市有施設のごみ排出抑制、資源化を検証し改善指導 [定量-1]	通年	公文書の廃棄における分別資源化の促進・指導 焼却に代わる処分方法として、製紙業者へ持ち込み熔融・資源化する方式に変更した。 処分量：59,400 kg	4/14  通年	A
事業系ごみの展開検査と分別収集指導 [定量-1]	通年	穂高クリーンセンターにおける展開調査に構成市町村として参加 ( 1 回実施 )	6/22	A
事業者への減量化と適正処理の協力要請 [定量-1]	通年	収集業者経由で、分別・資源化の促進資料を配布。 食品ロス削減啓発用コースターの作成。	通年 3月	A
収集運搬業者に向けた研修会 [定量-1]	7月	収集運搬委託業者の業務打ち合わせ会議を開催し、事業者向けの啓発を依頼した。 許可業者向けの研修会は実施しなかった。	3月	A
事業系可燃ごみ排出量 [ 定量 2 ]	8,038t	事業系可燃ごみ排出量...10,874t		B

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -2 ごみ減量化再利用対策事業（事業系）

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期（4～12月）	後期（1～3月）
	効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市有施設のごみ排出、資源化を検証し改善指導</li> <li>焼却に代わる処分方法として、製紙業者へ持ち込み溶融・資源化する方式へ変更した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市有施設のごみ排出、資源化を検証し改善指導</li> <li>焼却に代わる処分方法として、製紙業者へ持ち込み溶融・資源化する方式へ変更し、継続した。</li> </ul>
	不十分だった取り組みや項目	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者への減量化と適正処理の協力要請</li> <li>新たな取り組みができていない。</li> <li>・収集運搬業者に向けた研修会</li> <li>実施できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者への減量化と適正処理の協力要請</li> <li>新たな取り組みがあまりできなかった。</li> <li>・収集運搬業者に向けた研修会。</li> <li>実施できなかった。</li> </ul>	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期（4～12月）	後期（1～3月）
	改善点	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者への減量化と適正処理の協力要請。</li> <li>事業者が取り組みやすい減量化等の方法を検討し、協力要請をおこなう。</li> <li>・収集運搬業者に向けた研修会。</li> <li>研修会を開催できるように調整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者への減量化と適正処理の協力要請。</li> <li>事業者が取り組みやすい減量化等の方法を検討し、協力要請をおこなう。</li> <li>・収集運搬業者に向けた研修会。</li> <li>研修会を開催できるように調整する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の排出責任の観点から排出量削減を要請していくべき。（委員）</li> </ul>	

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 環境マネジメントシステムを導入する
事業名	-1 環境マネジメントシステムの構築と運用
目的	安曇野市がその事業実施の中で自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、達成に向けて取り組む。
目標	エコアクション 21 CO <sub>2</sub> 削減プログラムの構築・運用
担当課・係	環境課 環境政策係

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
エコアクション 21 キックオフ宣言 (市長が組織全体で取り組むことを決定し宣言する) [定量-1]	5月	エコアクション 21 キックオフ宣言	11/1	A
ステップ 1 取組対象の確認 実施体制組織の確立・周知 [定量-1]	5月	取組対象の確認 実施体制組織の確立・周知	11/2	A
ステップ 2 環境負荷の分析 現地診断 取組計画表の作成 職員研修の実施 [定量-1]	6月～ 9月	環境負荷の分析(実施中) 職員研修の実施	10/～11/ 10/26・27	A
ステップ 3 計画の実施 内部監査員研修 [定量-1]	9月～ 12月	計画の実施 内部監査の実施	H27.11/1 ～ H28.3/31 H28.3.4	A
ステップ 4 取組状況の確認と評価 環境活動レポートの作成  H28年4月審査申込 H28年7月認証・登録を目指す [定量-1]	1月～ 3月	前期取組確認評価  後期取組確認評価	H28.1.12  H28.4.8	A

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 環境マネジメントシステムの構築と運用

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
・エコアクション 21 キックオフ宣言をし、 取組がはじめられた。	・内部監査を実施し、改善事項の洗い出し が実施できた。	
不十分だった取り組みや項目		
・エコアクション 21 の趣旨が全庁に周 知できているか疑問である。	・エコアクション 21 の全体像が把握できるマ ニュアルの作成が必要。	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善策	
・取組の趣旨を全庁に周知していき、環境 負荷低減の取組を更に積極的なものとす る。	・エコアクション 21 の全体像が把握できるマ ニュアルを作成し、意識の徹底を図る。	
・数値目標が設定されていない取り組み項目はなるべく目標を設定するべき。(委員) ・監査で指摘のあった項目には速やかに対応していくこと。(委員)		

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 自然エネルギー導入を進める
事業名	-1 住宅用太陽エネルギー導入システムへの補助金交付事業
目的	自然エネルギーの活用による自然環境の保全。
目標	住宅用太陽光発電システム設置補助事業・・・補助金額 3,600 万円 住宅用太陽熱高度利用システム設置に対する補助金交付事業・・・補助金額 100 万円
担当課・係	環境課環境政策係

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
<p>住宅用太陽光発電システム設置補助事業 (1 キロワット当たり 3 万円の補助金交付。限度額 12 万円。)</p> <p>予算額 3,600 万円 目標設置件数 300 件 目標発電量 1,410,000 kWh 目標削減量 約 710 t-CO<sub>2</sub> (本年度設置分の延べ目標推計年間発電量) (昨年度 1 件当たり平均 4.7kW × 300 件)</p> <p>(一社)太陽光発電協会による <a href="http://www.jpea.gr.jp/knowledge/whynow/index.html">http://www.jpea.gr.jp/knowledge/whynow/index.html</a> [定量-2]</p>	通年	<p>申請件数 207 件 発電量 1,023,960 kWh CO<sub>2</sub>削減量 約 516.08 t-CO<sub>2</sub></p> <p><b>参考</b> (前年度比) 申請件数 63 件 発電量 305,080 kWh CO<sub>2</sub>削減量 約 153.92 t-CO<sub>2</sub></p>	4~3月	B
<p>住宅用太陽熱高度利用システム設置に対する補助金交付事業 (システム設置費経費の 1/5 の補助金交付。限度額 4 万円。)</p> <p>予算額 100 万円 目標申請件数 25 件 目標集熱量 493,650MJ (本年度設置分の延べ目標年間有効集熱量) (昨年度 1 件当たり平均 19,746MJ × 20 件)</p> <p>(一社)ソーラーシステム振興協会による <a href="http://www.ssda.or.jp/energy/merit.html">http://www.ssda.or.jp/energy/merit.html</a> (試算条件) ・年間有効集熱量: 年間傾斜面日射量 1,300,000kcal/m<sup>2</sup>(5,442MJ/m<sup>2</sup>) ・集熱効率: 40% ・燃焼効率: 80% ・1kcal = 4.18605kJ ・その他、(一社)ソーラーシステム振興協会データブックによる [定量-2]</p>	通年	<p>申請件数 4 件 有効集熱量 49,062 MJ CO<sub>2</sub>削減量 約 3.62 t-CO<sub>2</sub> (LP ガス使用時との比較) CO<sub>2</sub>削減量 約 4.16 t-CO<sub>2</sub> (灯油使用時との比較)</p> <p><b>参考</b> (前年度比) 申請件数 2 件 有効集熱量 69,413 MJ CO<sub>2</sub>削減量 約 5.12 t-CO<sub>2</sub> (LP ガス使用時との比較) CO<sub>2</sub>削減量 約 5.89 t-CO<sub>2</sub> (灯油使用時との比較)</p>	4~3月	D

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 住宅用太陽エネルギー導入システムへの補助金交付事業

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報あづみの(第206号)への掲載。</li> <li>・各種補助金の案内チラシの作成及び松本地方事務所建築課への設置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市HPの更新。(市HPのリニューアルに合わせてデザイン構成などを修正。)</li> <li>・申請書及び実績報告書等の各種様式記載例の更新。(電話等で照会の多い項目について注意書きを明記。)</li> </ul>
	不十分だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市HPのこまめな更新による情報発信。</li> </ul>	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善点	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市HPの更新を行う。(1月時点での受付可能額の表示により申請を促す。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より制度の周知を進めるため、広報媒体の多様化を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々申請件数が減少しているので、自然エネルギーの普及拡大に関しては将来展望を見据えた運営管理を。(委員)</li> </ul>		

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 自然エネルギー導入を進める
事業名	-2 小水力発電の調査・検討・活用の取り組み
目的	農業水利施設を利用した水力発電により土地改良施設の電力需要に対処し、または、余剰電力を電力会社に売電することによって、土地改良施設の維持管理費を軽減する。
目標	管内土地改良区施設における小水力発電所の設計 新規発電所の建設計画の推進
担当課・係	耕地林務課 耕地担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
平成 27～28 年度 有明土地改良区が実施する小水力 発電事業に対する支援。 [定量-2]	1 箇所	水力発電方式のメーカ ーの検討 ・打ち合わせ会議 (2 回)  ・先進地視察研修 (1 回)  市からの建設負担金を 支出 事業費の 22.5% を負担 11,790 = 52,400 × 22.5% (単位: 千円)	平成 27 年 5 月 29 日 9 月 10 日 8 月 6 日  平成 28 年 2 月 19 日	A
平成 28 年度中信平左岸土地改良 区が実施する小水力発電事業に対 する計画について支援。 [定量-2]	1 箇所	平成 28 年度建設負担金 予算計上		A

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -2 小水力発電の調査・検討・活用の取り組み

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	・有明地区の建設工事が始まり関係者協議、調整を進めた。	・有明地区は10月工事完了予定で建設が進められている。
	不十分だった取り組みや項目、その要因	
	・中信平左岸地区の計画は始まったが、関係者協議は行っていない。	・特になし

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善点	
	・新規地区候補の発掘や、事業採択に向けた事務調整等余裕を持った日程調整に努め、事業実績効果を図る。	・中信平左岸地区の計画に対する関係者協議については、事業を円滑に進めるために、計画的な事務調整を早めに行うよう事業主体に依頼した。
	・事業によるメリットを明確にしてほしい。(委員)	

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 自然エネルギー導入を進める
事業名	-3 バイオマス燃料の調査・検討・活用の取り組み
目的	林地に放置されている未利用材の活用。
目標	薪ボイラーの公共施設への導入と運用 松枯損木、間伐材等の利用によるバイオマス燃料の民間施設への供給
担当課・係	耕地林務課林務担当

平成 27 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
薪ボイラーの運用検証 ( 薪使用量、効率的な運転試験等 ) [ 定量-2 ]	1 施設	薪使用量 116.0 m <sup>3</sup>	4 月 ~ 11 月	A
新設公共施設への薪ボイラー設置 [ 定量-2 ]	1 施設	未実施 ( 工期の遅延 )	-	C

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -3 バイオマス燃料の調査・検討・活用の取り組み

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林体験交流センターの天平の森で、灯油ボイラーの補助として、薪ボイラーを運用した。</li> <li>・伐採した松枯損木を、地元住民が主体となり、長野市の民間バイオマス発電施設に供給した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林体験交流センター天平の森は、冬期休館のため実績なし。</li> <li>・伐採した松枯損木を、地元住民が主体となり、長野市の民間バイオマス発電施設に供給した。</li> </ul>
	不十分だった取り組みや項目、その要因	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なし。</li> </ul>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山再生計画推進事業の木質バイオマス利用促進プロジェクトに編入し、林地の未利用木材の活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山再生計画推進事業の木質バイオマス利用促進プロジェクトに編入し、林地の未利用木材の活用を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用検証の結果を示してほしい。(委員)</li> </ul>	

平成 27 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 ( 中間時 / 年度末時 )

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 自然エネルギー導入を進める
事業名	-4 地中熱の調査・検討・活用の取り組み
目的	環境共有資源である地下水・地盤環境の持続可能な利用を行うと共に地中熱利用の普及促進。
目標	新規導入事業の検討
担当課・係	関係各課

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
・ 公共施設への導入の検討と実証 [定量-1]	通年	H27 設計施設 「三郷交流学習センター」 ボーリング (16m) 結果 水位が出なかったため 効率が悪いと判断し設置せ ず。 太陽光パネル設置予定		A

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -4 地中熱の調査・検討・活用の取り組み

総合評価 (Check)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	効果的だった取り組みや項目	
・		
不十分だった取り組みや項目、その要因		
・三郷交流学習センター「ポーリング(16m)結果水位が出なかったため効率が悪いと判断し設置せず。 太陽光パネル設置予定	・公共事業導入への費用対効果などの啓発が無かった。	

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	総合コメント	
	前期(4~12月)	後期(1~3月)
	改善点	
・施設建設に向けての費用対効果の確認と周知を図り、地中熱利用の調査、検討を促進する。先進地の状況を調べる必要がある。	・施設建設に向けての費用対効果の確認と周知を図り、地中熱利用の調査、検討を促進する。先進地の状況を調べる必要がある。	



## 【進行管理】

マネジメントの基本的なサイクルである PDCA サイクルに従い、毎年改善をはかります。

このサイクルは、毎年においては年間の取り組み予定をまとめた実施計画書と取り組み結果をまとめた年次報告書が基本となります。

第一次行動計画では、推進会議と安曇野環境市民ネットワーク（以下、「ネットワーク」という。）及び環境基本計画庁内調整会議（以下、「庁内調整会議」という。）との連携が十分ではありませんでした。そこで第二次行動計画では、この連携体制についても強化をはかります。PDCA サイクルの段階ごとの各主体の役割について、以下に示します。

### 計画する（Plan）

取り組みを企画し、関係者と調整の上、市民・事業者に対して広報・周知します。

推進会議 } 相互に連携しながら取り組みを企画し、実施計画書を作成して、情報  
庁内調整会議 } を市民・事業者に広報・周知します。

ネットワーク：企画を共有し、協議の上、主体的に所属団体の計画に反映します。

市民・市民団体等・事業者：取り組みの情報を入手します。

### 実行する（Do）

企画に基づいて実践・啓発を行い、市民・事業者の参加をはかります。

推進会議：庁内調整会議、ネットワークと連携して、実践・啓発を行います。

庁内調整会議：推進会議、ネットワークと連携して、実践・啓発を行います。  
（ネットワークへの説明など）

ネットワーク：推進会議、庁内調整会議と連携して、啓発を行います。  
（所属団体への参加の呼びかけなど）

市民・市民団体等・事業者：プログラムに積極的に参加します。

### 点検する・評価する（Check）

取り組みの結果を集約し、各会議に報告して、点検・評価を受けます。

推進会議 } 相互に連携しながら取り組みの結果をとりまとめ、年次報告書を作  
庁内調整会議 } 成して環境審議会に報告します。

ネットワーク：所属団体の活動結果をとりまとめ、推進会議、庁内調整会議と情報共有します。

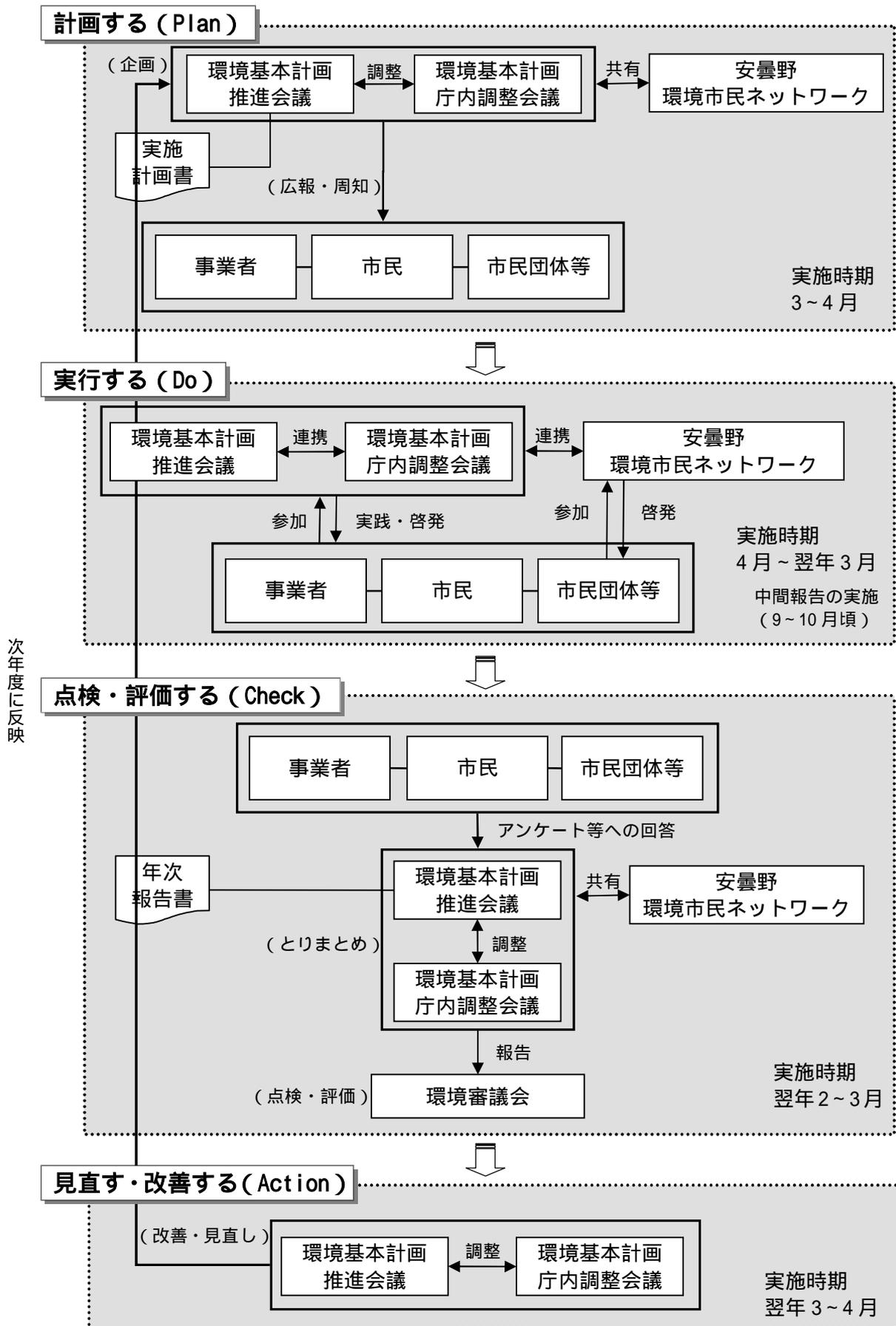
市民・市民団体等・事業者：取り組みに参加した結果を、アンケートへの回答等により報告します。

環境審議会：年次報告書について、点検・評価します。

### 見直す・改善する（Action）

点検・評価の結果についてとりまとめ、改善点を次年度の計画へ反映します。

推進会議 } 相互に調整をはかりながら、改善点を整理し、次年度の計画へ反映  
庁内調整会議 } します。



進行管理 (環境行動計画版)

#### 4.2 参考資料 2 : 安曇野市環境基本計画推進会議委員 名簿

役 職	氏 名	所属など	区 分	備 考
会 長	千國 温	旧環境基本計画策定委員	市長推薦	
副会長	植松 晃岳			
委員	川井 敏克	安曇野市商工会	事業団体代表	
	丸山 祐司 (H26.4.1~H26.5.11)	安曇野工業会		
	飛永 満 (H26.7.21~H28.3.31)			
	丸山 多江			安曇野市農業委員会
	青柳 聡	J A あづみ		
	望月 静美	安曇野市消費者の会	環境関連団体 代表	
	岡江 正	長野県建築士会 安曇野支部		
	太田 忠雄	安曇野市地球温暖化 防止活動推進員協議会		
	横田 耕太郎	安曇野環境市民ネットワーク		
	本木 修一		公募委員	
	鈴木 慶次郎			
	樋口 嘉一	旧環境基本計画策定委員	市長推薦	
	宮崎 崇徳			
	近藤 眞奈美			
重野 義博	区長会			

(任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)



推進会議の様子 (平成 27 年 9 月 11 日)



推進会議の様子 (平成 28 年 1 月 12 日)

## 登録団体の活動状況

ネットワーク登録団体間や、安曇野市環境基本計画推進会議との情報共有を目的とし、登録団体の年度内の活動状況の報告を依頼したところ、全 26 団体のうち、12 団体より報告をいただきました。

報告を受けた団体一覧

活動分野	団体名
自然	野生生物資料情報室
自然	NPO 法人 川の自然と文化研究所
自然	田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」
景観	三角島ふるさとの森プロジェクト
景観	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
景観	安曇野ふるさとづくり応援団
景観	安曇野百選プロジェクト
自然・生活・資源	安曇野市消費者の会
自然・資源・ 農林・生活	生活協同組合コープながの
地球温暖化防止	安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会
地球温暖化防止	マイ箸づくりサポートボランティア
環境	(公財)長野県長寿社会開発センター松本地区賛助会 安曇野地域会

安曇野環境市民ネットワーク登録団体の年度内の活動状況

団体名	野生生物資料情報室
記入者名	植松晃岳

日付	イベント・講座	場所	参加人数
4月23日	オオルリ観察会(座学と観察会)	烏川溪谷緑地	25人
5月16日	野鳥観察会	乗鞍高原	12人
6月20日 21日	ライチョウ観察会(座学と観察会)	燕岳	15人
6月27日 28日	ライチョウ観察会(座学と観察会)	燕岳	13人
1月15日	上高地の動物とアニマルラッキング(座学)	Mウイング	25人
1月20日	安曇野の動物とアニマルラッキング(座学)	烏川溪谷緑地	18人
1月24日	スノーシュートレッキングとアニマルラッキング	烏川溪谷緑地	27人

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 オオルリ観察会

理由

夏鳥の美しい鳥であるオオルリは人気があり、観察会でほぼ確実に見ることができる。

団体名	NPO 法人 川の自然と文化研究所
記入者名	事務局 松井 一晃

日付	イベント・講座	場所	参加人数
6月2日	川の生き物勉強会	明科せせらぎS	40
6月24日	あづみ野エフエムにて活動紹介(放送 7/29)	明科七貴	3
7月18日	第10回川の自然と文化講演会	豊科	55
7月19日	川の生き物観察会	明科潮沢	45
7月21日	ホテルの生態と保全に関する講演	明科せせらぎS	15
7月22日	ホテル調査	豊科中堀	12
8月6日	川の生き物観察会	明科せせらぎS	40

8月23日	川の生き物観察会	烏川緑地公園	33
10月10-11日	安曇野環境フェア	堀金	100

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 第10回川の自然と文化講演会

理由

アンケート結果では、毎回興味ある話を聞くことができる、勉強になる、という感想が多かった。

団体名	田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」
記入者名	伊藤

日付	イベント・講座	場所	参加人数
4月18日	開講式、オリエンテーション、観察会	豊科	25
5月9日	昆虫採集	豊科	26
6月6日	オオルリジミの観察	堀金	20
7月11日	昆虫観察	堀金	24
8月8日	ライトトラップ	明科	25
9月12日	昆虫採集	明科	16
11月7日	化石採集	松本市	18
1月16日	野鳥観察	明科	16
2月13日	修了式	豊科	19

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 ライトトラップ

理由

数年ぶりに行った講座のため、反響が大きかった。普段は昼間の観察会だが、夜に光城山で行ったことも、夏休みの子供たちの思い出作りに一役買ったのではと思う。

団体名	三角島ふるさとの森プロジェクト
記入者名	リーダー 場々洋介

日付	イベント・講座	場所	参加人数
7月4日	第1回アレチウリ駆除	三角島	7名
7月8日	三角島将来構想 打ち合せ	庁舎	3名
8月2日	第2回アレチウリ駆除	三角島	5名
8月9日	三角島の自然を楽しむ集い(ボート) 水と親しむイベント	三角島	14名
8月6日	イベント準備のため草刈り 第3回アレチウリ駆除	三角島	6名
9月13日	三角島の自然を描く集い 講師:征矢野 先生	三角島	40名
10月11日	三角島の自然を描く集い 講師:征矢野 先生にて表彰式	堀金	20名

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 三角島の自然を描く集い

その理由

恒例のイベントで、征矢野先生の人気と自然の素晴らしさ

団体名	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
記入者名	リーダー 場々洋介

日付	イベント・講座	場所	参加人数
7月15日	自民党で屋敷林説明 降幡・等々力	自民党(東京)	20名
10月11日	環境フェア2015 展示屋敷林見学会	北穂高	8名参加
11月13日	武蔵野市視察	武蔵野市	15名参加
11月28日	落ち葉拾いボランティア	中沢家(梓)	15名
3月19日	安曇野屋敷林フォーラム 2016 (予定)	豊科	

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 安曇野屋敷林フォーラム 2016

理由

土屋正忠氏(副大臣)の基調講演 及びPR効果

団体名	NPO 法人安曇野ふるさとづくり応援団
記入者名	宮崎 崇徳

日付	イベント・講座	場所	参加人数
4月26日	第21回ふるさとウォッチング in 安曇野	穂高牧	約70名
5月10日～ 6月28日	安曇野ふるさとさんぽ 2015 春(4回)	市内各地	約70名
7月11日～ 9月5日	さとやま楽校案内人の教室(6回)	国営公園	各12名
9月22日	安曇野さとやまさんぽ	角蔵山	約30名
10月12日	第22回ふるさとウォッチング in 安曇野	豊科細萱	約70名
11月23日 ～29日	安曇野ふるさとさんぽ 2015 秋(2回)	市内各地	約30名

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由  
 イベント・講座名 ふるさとウォッチング in 安曇野  
 理由  
ゆっくり歩きながら、地域の歴史文化を学ぶことができる

団体名	安曇野百選プロジェクト
記入者名	宮崎 崇徳

日付	イベント・講座	場所	参加人数
8月8日	安曇野みちあかり(七夕)	保高宿	多数
12月4～6日	安曇野みちあかり(神竹灯)	穂高神社	多数
2月7日	安曇野みちあかり(穂高あめ市)	穂高神社	多数
2月7日	安曇野百選ウォークラリー	穂高神社	約200名

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由  
 イベント・講座名 安曇野百選ウォークラリー  
 理由  
親子が楽しみながら地域の魅力を学ぶことができる

団体名	安曇野市消費者の会
記入者名	平林 千代

日付	イベント・講座	場所	参加人数
6月21日	あやめまつりフリーマーケット	明科	
7月18日	石けん加工一般体験研修会	豊科	5
8月30日	親子水のふれあい	明科	100
9月28日	ホームタウン明科	明科	
10月10、11日	環境フェア	堀金	80~100
10月31日 11月1日	明科地域文化祭	明科	50

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 環境フェア

理由

子ども服リサイクルコーナーが好評でした

団体名	生活協同組合 コープながの
記入者名	総合企画室 召田 洋一

日付	イベント・講座	場所	参加人数
4月26日	「森の里親契約」を通じた「山仕事体験」きのこの駒打ち	豊科	53
6月 2日	川の生き物調査(大人企画)	明科	15
6月20日	田んぼの生き物調査	堀金	44
7月12日	長峰山蝶の観察	豊科	7
8月6日	川の生き物調査(親子企画)	明科	27
10月10・11日	安曇野環境フェア出展	堀金	
2月28日	森のクラフト教室	豊科	13

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 「森の里親契約」を通じた「山仕事体験」企画として、4月26日実施の「きのこの駒打ち」体験

契約の構成 里親:コープながの 里子:特定非営利活動法人森倶楽部21 仲介:長野県及び安曇野市

理由

日常生活では体験できない企画という意見が多くありました。また、会場が長峰山山頂という事もあり、「近くにこんないい場所があったのか」という感想もありました。

団体名	安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会
記入者名	樋口 嘉一

日付	イベント・講座	場所	参加人数
5月23日	安曇野市 緑のカーテン講座 「緑のカーテンと夏の省エネ対策について」講演	豊科	30名
7月22日	安曇野エフエムにて「安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会」の活動について収録、後日放送	明科	—
10月10～11日	安曇野環境フェア 2015 ブース展示	堀金	1800名(環境フェア来場者公式発表)
10月11日	安曇野環境フェア 2015 の環境活動発表会にて「安曇野市の環境家計簿について」講演	堀金	40人
11月3日	SBCTVにて「安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会」の活動について収録、12月26日放送	穂高他	—
1月20日	安曇野環境市民ネットワークの“環カフェ”にて「私達の未来をつくる」を講演	豊科	20名
1月21日	新屋公民館役員研修会にて「私達の暮らしと地球温暖化」を講演	穂高	13名
1月29日	安曇野工業会会員研修会、「自社のエネルギー計画を作る第1回」の講師	豊科	6名
2月12日	同上の件、参加できなかった企業を訪問して指導	穂高	1名
3月2日	有明高原寮生への講演「社会人としての心構え、態度」	穂高	9名
3月2日	安曇野工業会会員研修会「自社のエネルギー計画を作る第2回」の講師	豊科	4名
3月20日	公民館講座にて「家計にやさしい省エネ～CO2排出削減」を講演	穂高	30名

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 新屋公民館役員研修会 「私達の暮らしと地球温暖化」

理由

アンケートのご意見:

- ・地球温暖化に関するセミナーは初めてなのでもっと身近にセミナーがあればと思う。未来のためにしっかり考えていく必要があるものだと思う。
- ・地球温暖化については人類にとって大変重要な問題であると思いました。もっと皆が関心を持って考えていかなくてはいけないと思います。
- ・私達の地球を自分達で守るように、自分でできるところから始めようと思いました。

団体名	マイ箸づくりサポートボランティア
記入者名	矢口 今朝雄

日付	イベント・講座	場所	参加人数
6月13日	箸づくり	中萱公民館	22
7月31日	箸づくり	柏矢町会館	18
8月14日、15日	箸づくり	穂高ビューホテル	9
9月28日	箸づくり	明科中学校	10
9月30日	箸づくり	社協(吉野)	18
10月10日、11日	箸づくり	堀金(環境フェア)	67
12月13日	箸づくり	豊科(日本語教室)	32
3月27日	箸づくり	豊科(豊科成人大学)	20

特に来場者からの反響が大きかったものとその理由

イベント・講座名 環境フェア他講座すべて

理由

地球温暖化防止、ものを大切にする心

団体名	(公財)長野県長寿開発社会センター松本地区賛助会 安曇野地域会
記入者名	小野 松雄

日付	イベント・講座	場所	参加人数
6月20日	【参加】安曇野市水辺観察講座	烏川溪谷緑地他	
11月14日	【参加】環カフェ 暑さ寒さを我慢しない暮らし方教えます	研成ホール	

参加したイベント・講座で特に印象に残ったものとその理由

イベント・講座名 環カフェ 暑さ寒さを我慢しない暮らし方教えます

理由

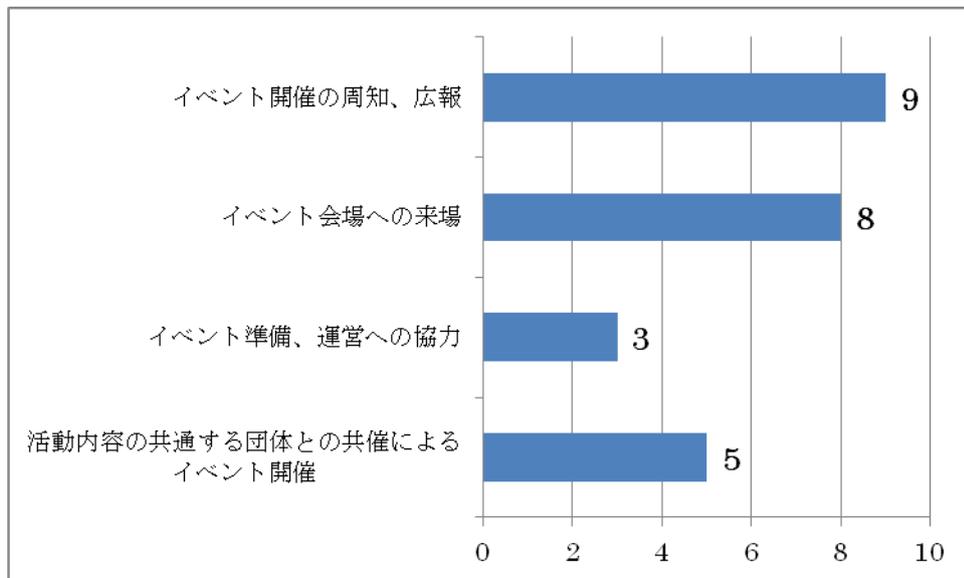
地球全体で2℃気温が上がると変化が起きる、その変化には人の方が対応する必要がある。家の性能で医療費は抑えられる。

## アンケート集計結果

### 【問】

貴団体がイベント・講座を実施する際、他のネットワーク登録団体や環境基本計画推進会議委員にどのようなことを期待しますか。該当する番号を回答欄に記入してください。(複数回答可)

1. イベント開催の周知、広報
2. イベント会場への来場
3. イベント準備、運営への協力
4. 活動内容の共通する団体との共催によるイベント開催



### 【問】

その他、今後環境市民ネットワークとして取り組んでみたい活動がありましたらご自由にご記入ください。

(例: 特定外来生物(アレチウリなど)の駆除活動)

- ・松くい虫で伐採された材木をチップにしてウォーキングコースや遊歩道に敷く活動
- ・市内の緑地 桜 屋敷林 などの見学会
- ・安曇野環境市民ネットワークの広報誌(2~4回/年)の発行を希望します。
- ・加盟団体の活動状況についてHPへの掲載を希望します。
- ・安曇野の古写真の収集とデータベース化

# 安曇野市地球温暖化対策 行動計画

平成 28 年 3 月

安曇野市環境基本計画推進会議

## 目次

1. 行動計画の概要 .....	1
2. 温室効果ガス排出量の現況と目標値 .....	2
2.1 2012年までの排出量推計結果 .....	2
2.2 部門別の排出状況 .....	2
2.3 部門ごとの排出量の内訳 .....	3
2.4 CO <sub>2</sub> 排出量の削減目標値 .....	4
3. 今後必要な取り組み .....	5
3.1 取り組みのポイント .....	5
3.2 取り組みの裾野を広げるために .....	5
4. 5つの基本目標ごとの具体的な取り組み .....	6
4.1 地球温暖化問題を知り、行動しよう .....	6
4.2 より一層の省エネルギーを推進しよう .....	8
4.3 自然エネルギーの利用を拡大しよう .....	10
4.4 低炭素・循環型のまちづくりを進めよう .....	12
4.5 緑を守り育てよう .....	14
5. 進行管理 .....	17
5.1 取り組みの成果把握 .....	17
5.2 進行管理の仕組み .....	18
6. 今後の検討課題 .....	20

## 1. 行動計画の概要

安曇野市では、2012（平成 24）年に、市全域から排出される温室効果ガスの排出量削減を目的とした「安曇野市地球温暖化対策実行計画」（以下、「実行計画」という。）を策定しました。現在、この計画で定めた内容に基づき、様々な地球温暖化対策を実行しています。

安曇野市全体から排出される温室効果ガスの量は、活動量からの推計によって算出することができます。計画策定時点からの推移を見ると、排出量が削減できている部門と、さほど効果がみられない部門とがあることがわかりました。また、実行計画の目標を達成するためには、市民・事業者のみなさんも一緒になり、市全体として取り組む必要があります。また、地球温暖化対策の取り組みを幅広く浸透させなければなりません。

そこで今回、実行計画に盛り込まれている内容のうち、目標達成に近づけるため、向こう 5 年程度で実施する「重点的に取り組む項目」を抽出し、それぞれについての具体的な進め方を整理しました。

重点的な取り組みが必要な部門：家庭、業務、運輸

「2 温室効果ガス排出量の現況」を参照

行動計画に盛り込んだ重点的に取り組む項目

重点的に取り組む項目	対象部門	期待される効果
[ 1 ] 積極的な情報発信	家庭・業務	● 高頻度で情報に触れることにより、温室効果ガス排出量削減の行動に結びつく。
[ 2 ] 「見える化」の促進	家庭・業務	● どのくらい節約できるのかを直接目にすることで、意識が変わり温室効果ガス排出量削減に結びつく。
[ 3 ] 教育・啓発の推進	家庭・業務・運輸	● 市民・事業者の関心と意識を高め、行動を起こしていただく。
[ 4 ] 建築物の省エネ化	家庭・業務	● エネルギー消費の多い建物を省エネ化し、温室効果ガス排出量も削減する。
[ 5 ] 省エネ行動の推進	家庭・業務	● CO <sub>2</sub> 削減への関心と意識を高め、行動を起こしていただく。
[ 6 ] （自然エネルギー）事業化の支援	業務	● 市内で計画される自然エネルギー事業の事業化を支援し、導入を促進する。
[ 7 ] 自動車の CO <sub>2</sub> 排出量低減	運輸	● 自動車の温室効果ガス排出量を削減する。
[ 8 ] 「安曇野市森林整備計画」 「安曇野市里山再生計画」 に基づく森林整備の推進	家庭・業務	● 森林の整備を進め、CO <sub>2</sub> 吸収源としての状況を把握する。

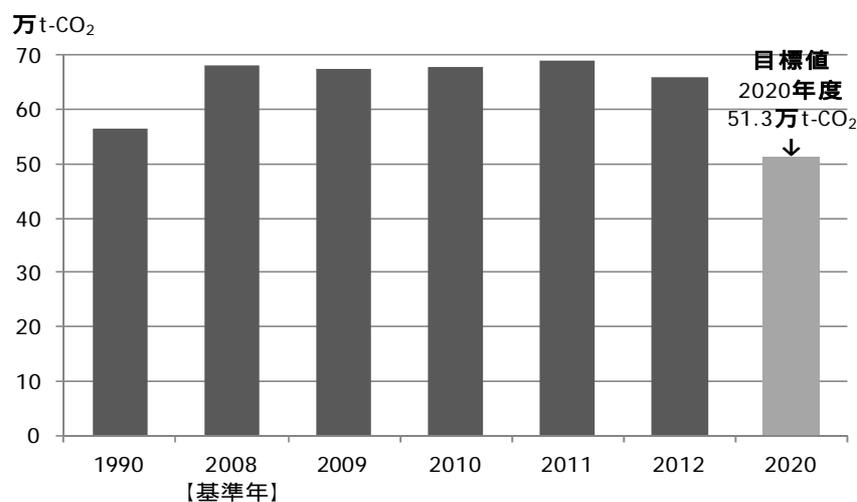
## 2. 温室効果ガス排出量の現況と目標値

### 2.1 2012年までの排出量推計結果

本計画策定時点（2016年1月）において、安曇野市の温室効果ガス排出量として把握できる最新の値は、2012年度のデータです。

この結果によると、2012年度の安曇野市における総排出量は約66万t-CO<sub>2</sub>でした。

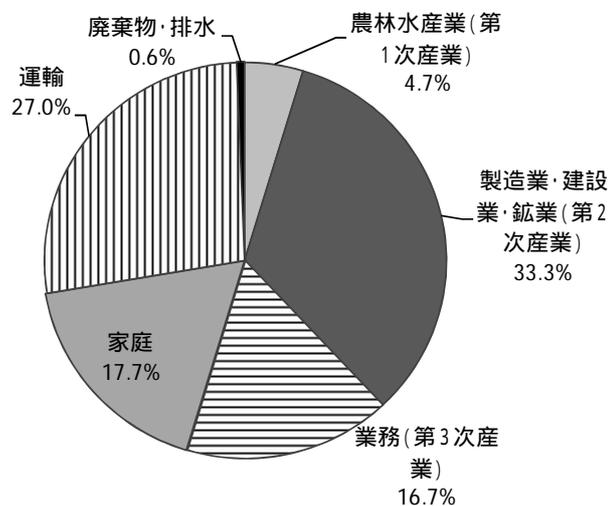
基準年の2008年度からの推移は、2011年度までほぼ横ばいで、2012年度に減少しました。2012年度の排出量は、基準年の2008年度（約68.4万t-CO<sub>2</sub>）と比較して3.5%の減少となりました。しかし、実行計画における目標値（2020年度に約51.3万t-CO<sub>2</sub>）を達成するためには、なお一層の努力が必要です。



安曇野市の温室効果ガス排出量の推移と目標値

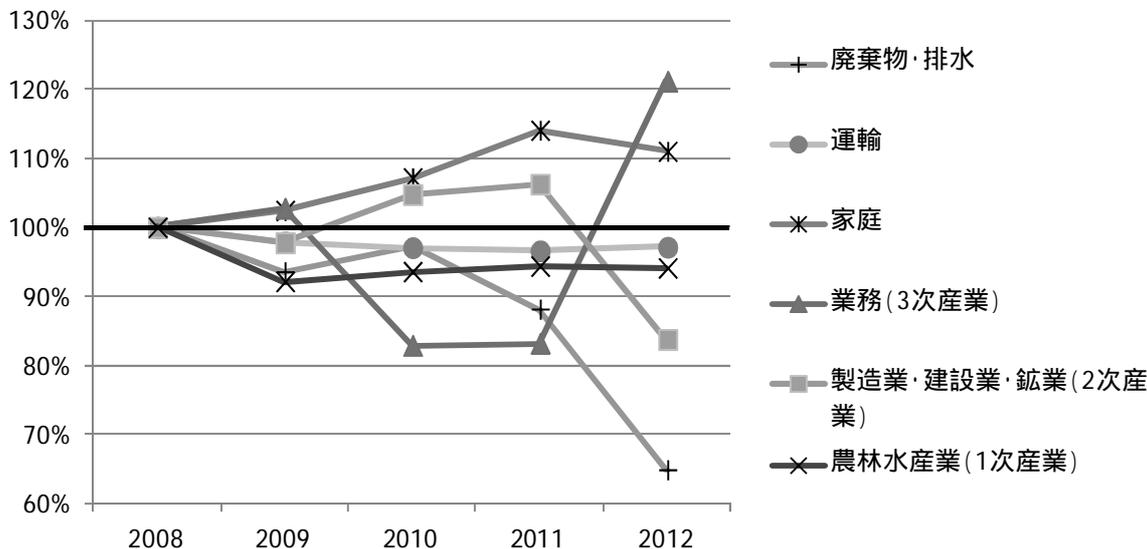
### 2.2 部門別の排出状況

2012年度の温室効果ガス排出量を部門別に見てみると、排出量が最も多いのは製造業・建設業・鉱業の第2次産業で、全体の約1/3を占めています。次いで運輸部門、家庭部門、業務部門の順に多くなっています。



安曇野市における温室効果ガス排出量の部門別内訳 (2012年度)

部門ごとの各年の排出量について、実行計画の基準年との比較をみます（2008 年度を 100 とした各年の割合）。これによると、2012 年に基準年よりも削減となっているのは、第 1 次産業、第 2 次産業、運輸、廃棄物・排水です。逆に、第 3 次産業と家庭は、基準年よりも増加しています。特に第 3 次産業では 2012 年に大きく増加しました。



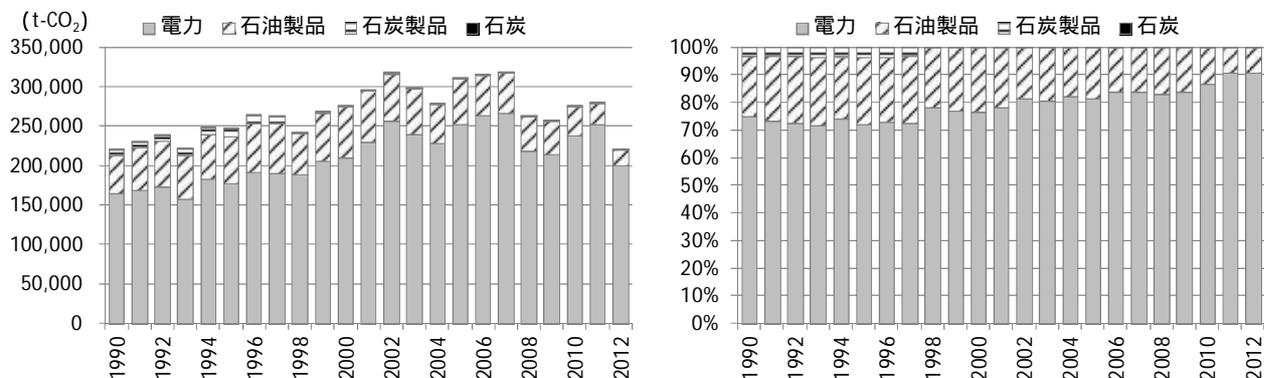
注：国・県等の統計資料に基づく推計結果であり、年により変動があります。

### 2.3 部門ごとの排出量の内訳

温室効果ガス排出量の多い、「製造業・建設業・鉱業（第 2 次産業）」と「業務部門」および「家庭部門」について、それぞれの排出量の内訳をみます。なお、排出量の算出に用いた資料は国・県等の統計資料であるため、年により変動があります。

#### 製造業・建設業・鉱業（第 2 次産業）

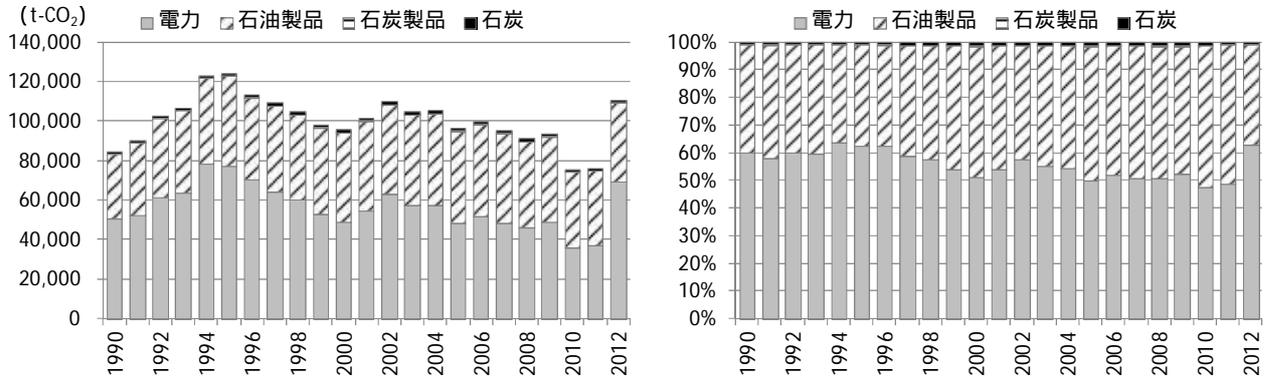
第 2 次産業では、電力による CO<sub>2</sub> が多くを占めており、その割合は年々増加しています。



製造業・建設業・鉱業（第 2 次産業）の温室効果ガス排出量の内訳

## 業務部門

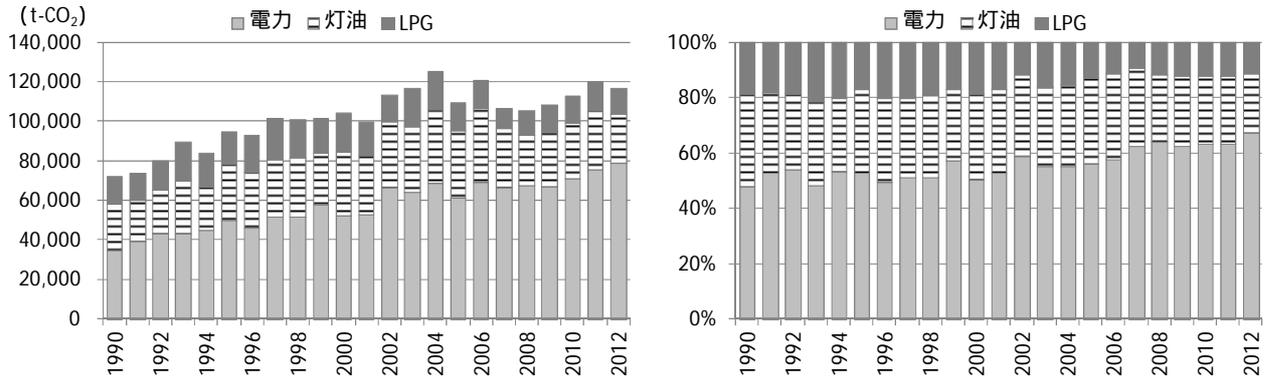
業務部門では、電力と石油製品の2つで排出量のほとんどを占めています。2011年から2012年に排出量が大きく増加しました。



業務部門の温室効果ガス排出量の内訳

## 家庭部門

家庭部門では電力の占める割合が年々増加傾向にあります。一方で、灯油・LPGの割合は横ばいかわずかに減少しています。



家庭部門の温室効果ガス排出量の内訳

## 2.4 CO<sub>2</sub> 排出量の削減目標値

実行計画に基づき、行動計画における CO<sub>2</sub> 排出量の削減目標は以下のとおりとします。

- 【現状】2012（平成24）年度の CO<sub>2</sub> 排出量 : 66 万 t-CO<sub>2</sub>（基準年度）
- 【目標】2020（平成32）年度の CO<sub>2</sub> 排出量 : 51.3 万 t-CO<sub>2</sub>
  - 目標年度までの9年間に削減する CO<sub>2</sub> の量 : 14.7 万 t-CO<sub>2</sub> ... A
  - 1年間あたりの CO<sub>2</sub> 削減量 : 1.633 万 t-CO<sub>2</sub> ... B、A ÷ 9
  - 2018（平成30）年度の CO<sub>2</sub> 排出削減量 : 1.633 × 7 = 11.431 万 t-CO<sub>2</sub>
- 〃 CO<sub>2</sub> 排出量 : 66 - 11.431 = 54.569 万 t-CO<sub>2</sub>  
54.6 万 t-CO<sub>2</sub>

### 3. 今後必要な取り組み

#### 3.1 取り組みのポイント

前項の分析結果から、今後、安曇野市の地球温暖化対策を進める上でのポイントを以下のように整理しました。

- より積極的な取り組みが必要なのは、第3次産業（業務）、家庭、運輸  
これまで手薄だった市民・事業者の取り組みを促進することが必要。
- 第2次産業は現行の取り組みを強化する。  
積極的な取り組みの啓発が必要。
- より多くの人々に取り組んでもらえるよう、取り組みの裾野を広げる  
1人の取り組みによる削減量は小さくとも、それがまとまれば大きな成果に。

#### 3.2 取り組みの裾野を広げるために

より多くの人に取り組んでもらうためには、取り組みのきっかけづくりが欠かせません。そして、だれでもできる簡単な取り組みを提供することも必要です。そのために、以下を行います。

- きめこまかな情報発信  
適切な情報を繰り返し発信することにより、関心を高める。
- 「見える化」の推進  
まずは、自分たちがどのくらいの温室効果ガスを排出しているかを知ることから。
- 地道に続ける  
「継続は力なり」続けてもらうためのインセンティブ提供も検討。

上記の項目についての具体的な進め方は、次項で説明します。

## 4. 5つの基本目標ごとの具体的な取り組み

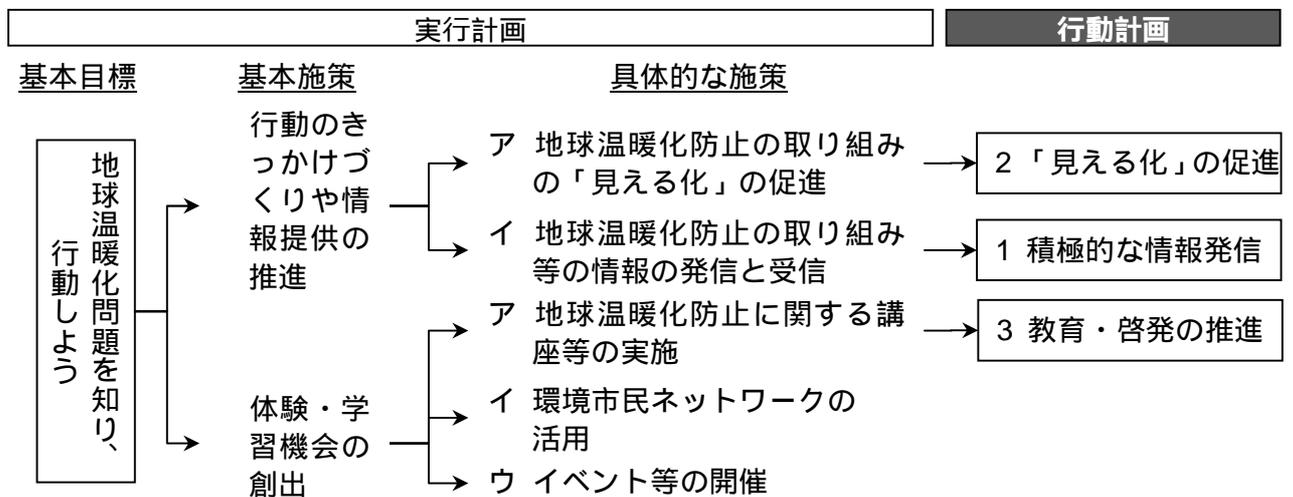
### 4.1 地球温暖化問題を知り、行動しよう

#### (1) 現状と課題

「実行計画」では、計画策定に際して実施した市民・事業者に対する意識調査において、地球温暖化問題に対する関心がやや低いという結果であったことから、「普及啓発」を計画において取り組む第一の項目に据えました。

地球温暖化によるとみられる現象が起りつつある今、より多くの人にこの問題に取り組んでもらう必要があるため、これまでとは違った方法での情報発信や教育・啓発に取り組めます。

#### (2) 施策体系



#### (3) 重点的に取り組む項目

##### 1 積極的な情報発信

- より多くの人に、まずは知ってもらうことを目的として、情報をこまめに、高い頻度で発信します。
- 広報などの既存の媒体だけでなく、インターネットや新聞、ラジオも活用した積極的な情報発信に取り組めます。

##### 2 「見える化」の促進

- 地球温暖化対策の取り組みは、家庭や事業所ごとに異なり、個別的で、適切な対策が何なのかを知るためには「見える化」によって普段の活動を数値化し、問題点を見つける必要があります。
- 家庭・事業者のそれぞれにおいて「見える化」を一層促進します。

##### 3 教育・啓発の推進

- 公民館講座や学校教育など、既存の教育の機会を活用し、地球温暖化問題とその対策に対する意識の向上をはかります。またそのための人材育成も同時に行います。

(4) 具体的な取り組みのロードマップ

民：市民、事：事業者、ネ：環境市民ネットワーク、行：行政をそれぞれ示します。

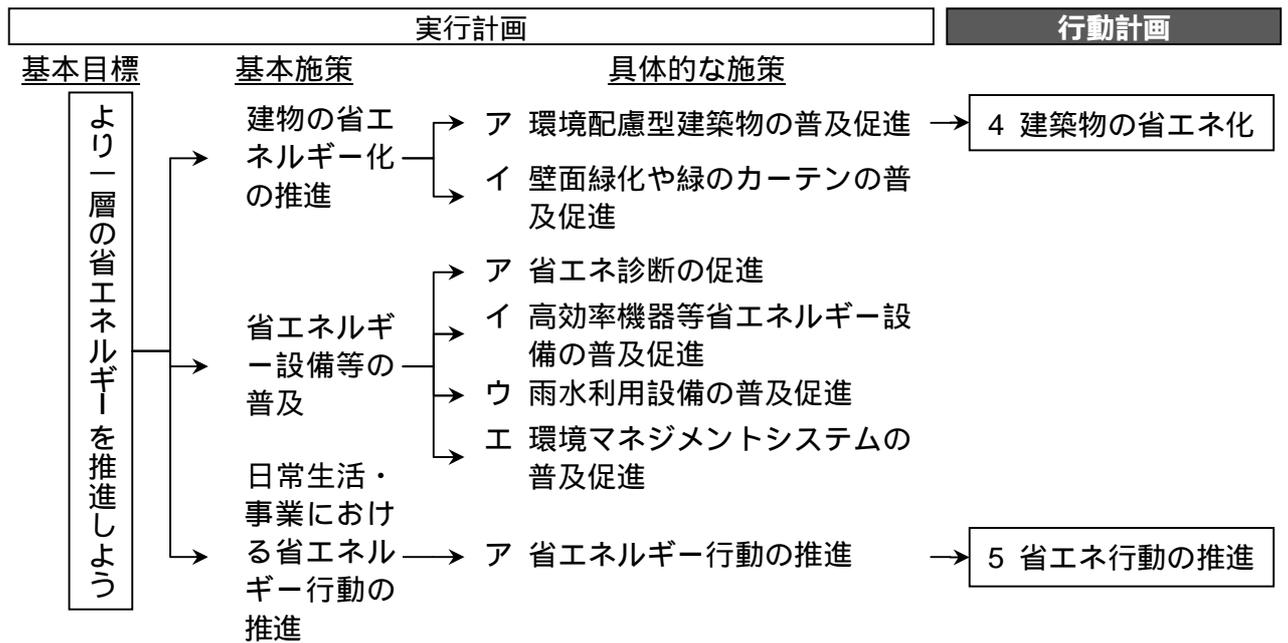
	H28年度 2016	H29年度 2017	H30年度 2018	H31 2019	H32 2020
1 積極的な 情報発信	行 発信方法・体制の検討				
	行 発信する情報の収集・整理 行 インターネット上での発信 (Twitter) 行 新聞・ラジオ等での発信 行 意識調査 (計画改訂時)				
発信する情報の内容 (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地球温暖化に関する基本的な情報 (起こっていること、その原因、どうすれば良いのか、など)</li> <li>● 役に立つ情報 (おサイフにやさしい知恵、使ってみると便利なもの、楽ちんなもの、など)</li> </ul>					
2 「見える化」 の促進	行 環境家計簿への参加呼びかけ				
	民 環境家計簿への参加				
	行 事業者向けプログラムの検討				
	行 事業者向けプログラムの提供				
	事 事業者向けプログラムへの参加				
	行 ネ CO <sub>2</sub> 削減コンテストの企画・参加呼びかけ				
	民 事 CO <sub>2</sub> 削減コンテストへの参加				
「見える化」プログラムの (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭向け：「うちエコ診断」(環境省) / 「家庭の省エネサポート事業」(県)</li> <li>● 事業者向け：「信州省エネパトロール隊」(一般社団法人長野県環境保全協会)</li> </ul>					
3 教育・啓発の 推進	行 内容の検討				
	行 提供先との調整				
	行人材登録制度の活用				
	行人材育成計画 行 公民館講座・小中学校での出前授業の開催				
	の立案 行人材育成計画の実行				
教育・啓発の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境課出前講座に「地球温暖化」メニューを加える。</li> <li>● 安曇野市内の長野県地球温暖化防止活動推進員を講師に迎え、公民館、学校等への講座開催。</li> <li>● 事業者向け地球温暖化講座の開催。(専門家の招聘)</li> </ul>					

## 4.2 より一層の省エネルギーを推進しよう

### (1) 現状と課題

地球温暖化対策におけるCO<sub>2</sub>排出量削減の1つの柱は、既存の排出源からの削減です。安曇野市では、事業所や家庭から排出されるCO<sub>2</sub>の多くは、電気に由来するものです。また、冬は気温が低い地域でもあることから、暖房等に使用するLPガス・灯油の消費量も多くなっており、これらからのCO<sub>2</sub>排出量が多いのも特徴です。より一層の省エネを進め、電気・LPガス・灯油の消費量を減らせば、それだけCO<sub>2</sub>の排出量を減らすことにもつながります。

### (2) 施策体系



### (3) 重点的に取り組む項目

#### 4 建築物の省エネ化

- 建築物の断熱性能を高め、エネルギー効率を高めることによって、冷暖房にかかるエネルギー消費量を減らすことができます。適切な省エネ対策を提案します。

#### 5 省エネ行動の推進

- より多くの人々が省エネルギー行動を実行する必要があります。基本目標1で挙げた情報発信を進めることで、省エネ行動に向けた普及啓発をすすめます。
- 省エネ行動に取り組むきっかけとなる参考情報の提供、より積極的な行動を実践している人や組織を表彰する「CO<sub>2</sub>削減コンテスト」(仮称)を実施します。

(4) 具体的な取り組みのロードマップ

民：市民、事：事業者、ネ：環境市民ネットワーク、行：行政をそれぞれ示します。

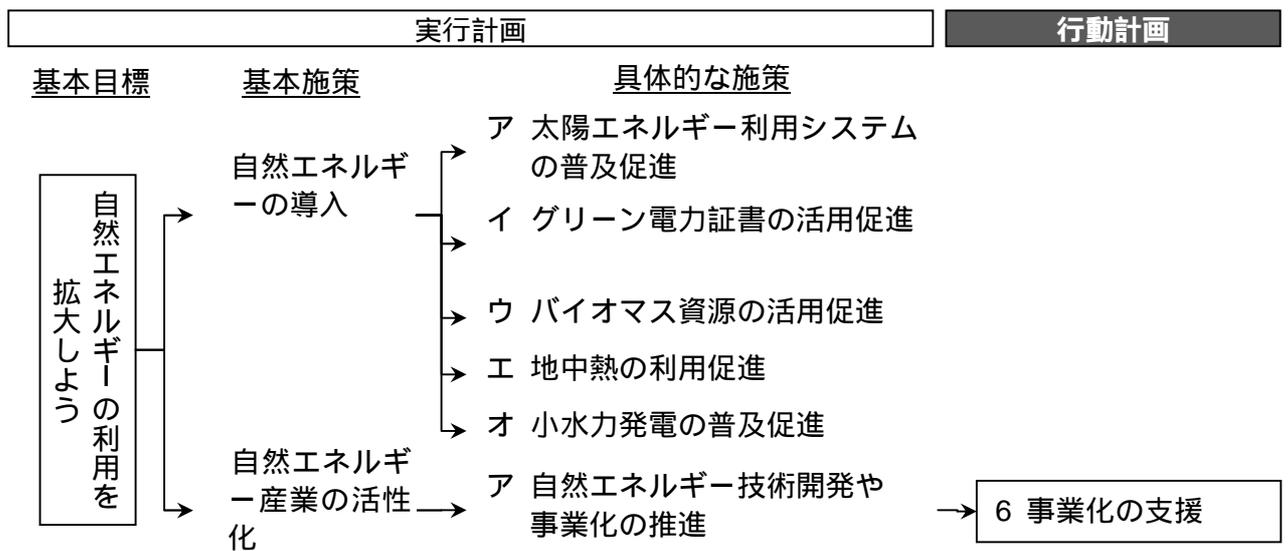
	H28年度 2016	H29年度 2017	H30年度 2018	H31 2019	H32 2020
4 建築物の 省エネ化	行 平成 25 年度省エネ基準及び県「検討制度」の周知			→	→
	行 省エネ改修 支援制度の情報提供			→	→
	民 事 新築時に省エネ型建築物を採用			→	→
	民 事 省エネ改修の実施			→	→
	建築物の省エネ化に関する情報提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成 25 年度省エネルギー基準</li> <li>● 住宅取得、リフォーム支援制度 等</li> </ul>				
県の「環境エネルギー性能検討制度」と「自然エネルギー導入検討制度」 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 建築物を新築する際に、設計・建築事業者は建築主に対し、環境エネルギー性能と自然エネルギー設備の導入を検討するための情報提供をすることとなりました。対象は床面積 10 m<sup>2</sup>以上の建築物です。</li> <li>● 床面積が 2,000 m<sup>2</sup>を超える大規模な建築物については、検討結果をとりまとめ、着手前に県へ届け出る必要があります。</li> </ul>					
5 省エネ行動の 推進	行 ネ CO <sub>2</sub> 削減コンテストの企画検討				
	行 CO <sub>2</sub> 削減コンテストの企画・実施			→	→
	民 事 CO <sub>2</sub> 削減コンテストへの参加	→	→	→	→
	行 インターネット上での発信			→	→
	CO <sub>2</sub> 削減コンテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネルギー行動の普及啓発を目的として、一定期間内に CO<sub>2</sub> をどの程度削減できたかを競うコンテストです。</li> <li>● 家庭および事業所を対象とし、成績上位者には記念品を進呈します。</li> </ul>				

### 4.3 自然エネルギーの利用を拡大しよう

#### (1) 現状と課題

省エネルギー行動と並ぶ、CO<sub>2</sub>削減のもう一つの柱が、自然エネルギー（再生可能エネルギー）の導入です。安曇野市は太陽光、水力、地熱、木質バイオマスなどの豊富なエネルギー源に恵まれていますが、その利用はあまり進んでいません。安曇野市の電気は、依然として地域外からの供給にそのほぼすべてを依存しています。大規模な災害が発生した場合等、緊急時にエネルギーを確保する意味でも、地域で生み出されるエネルギーの比率を高めることは非常に重要な課題です。

#### (2) 施策体系



#### (3) 重点的に取り組む項目

##### 6 事業化の支援

- 大規模太陽光発電（メガソーラー）については、採算性が見込める条件の良い場所では事業化が進められつつあります。それ以外の自然エネルギーについては、賦存量が多いと考えられているものの、事業化はほとんど進んでいません。
- 自然エネルギー賦存量調査を通じて、実態を把握し、情報を活用いたします。

(4) 具体的な取り組みのロードマップ

民：市民、事：事業者、行：行政をそれぞれ示します。

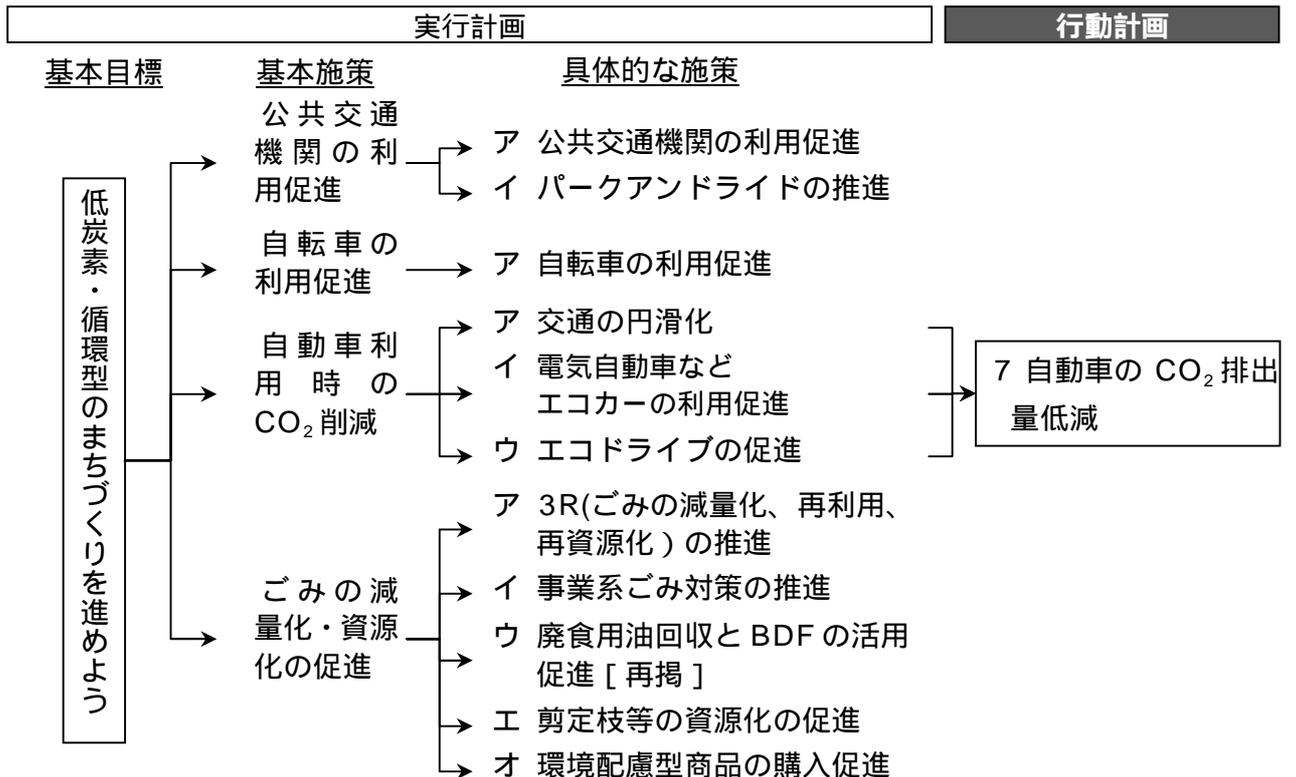
	H28年度 2016	H29年度 2017	H30年度 2018	H31 2019	H32 2020
6 事業化の支援	行 事業化支援策の検討				
		行 自然エネルギー賦存量調査の実施			
		行 把握した情報の公開			
		事 情報活用の検討			
	<p>安曇野市で利用可能と推測される自然エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 太陽光：日照時間が長く、冬場の積雪も少なめであり、適している。</li> <li>● 小水力：市内各所を豊富に流れる水は、安曇野の象徴。市内には、稼働開始から100年以上経過している「元祖」小水力発電機もあり、小水力発電に適している。</li> <li>● 地熱：有明温泉は、100 近い高温の温泉水が豊富に湧出しており、地表温度も高い場所が点在しているため、地熱エネルギーとしての高い潜在力を持っている。</li> <li>● 木質バイオマス：安曇野市の面積の60%は森林であり、かつ成熟期を迎えた森林が多いため、今後一層の利活用が求められる。適正な規模の発電設備の整備が求められる。</li> </ul>				

#### 4.4 低炭素・循環型のまちづくりを進めよう

##### (1) 現状と課題

安曇野市における CO<sub>2</sub> 排出量の多くを占める排出源の 1 つに、自動車があります。安曇野市は自動車に依存した交通体系となっており、自動車は生活や仕事になくてはならない存在です。CO<sub>2</sub> 排出量の少ない自動車に切り替えたり、自動車をより賢く利用することで、自動車からの CO<sub>2</sub> 排出量削減に取り組みます。

##### (2) 施策体系



##### (3) 重点的に取り組む項目

###### 7 自動車の CO<sub>2</sub> 排出量低減

- 電気自動車やハイブリッド自動車への切り替えは CO<sub>2</sub> 排出量の削減にも効果的ですが、多額の初期投資が必要であり、気軽に実行できるわけではありません。
- 自動車運転時にエコドライブを心がけることで、同じ自動車でも CO<sub>2</sub> 排出量を低減させることができます。今後、地域でのエコドライブ講習会の開催を進めます。

(4) 具体的な取り組みのロードマップ

民：市民、事：事業者、行：行政をそれぞれ示します。

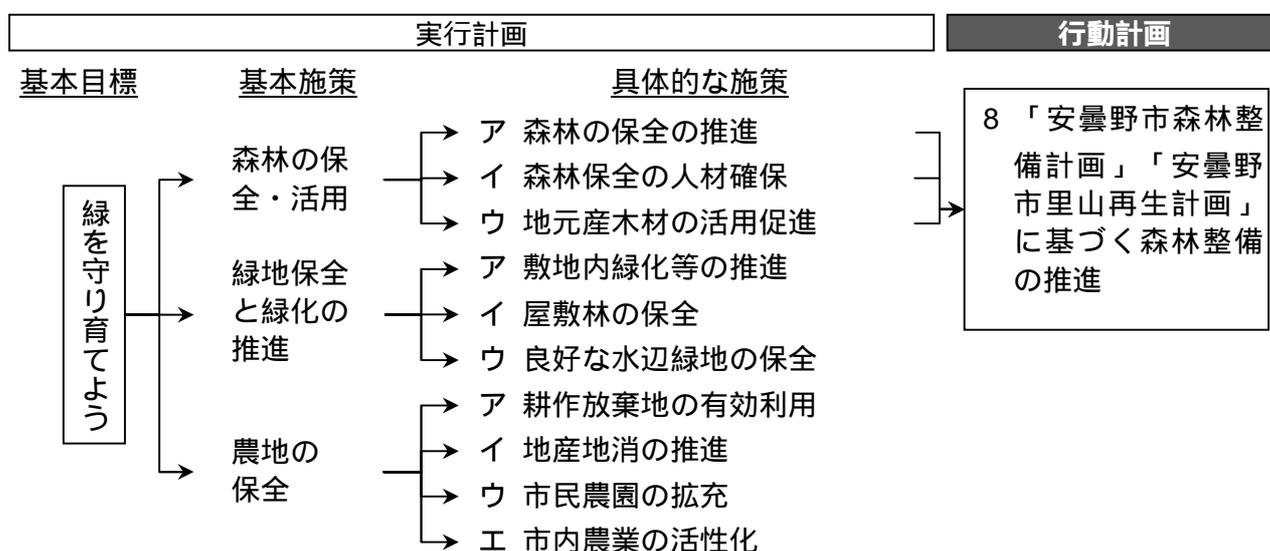
	H28年度 2016	H29年度 2017	H30年度 2018	H31 2019	H32 2020
7 自動車のCO <sub>2</sub> 排出量低減	行 エコドライブ講習会の企画・開催				
	行 自動車のCO <sub>2</sub> 低減に関する情報発信				
	民 事 行	エコドライブの啓発及び実践			
	行 意識調査（計画改訂時）				
<p>エコドライブ（環境負荷の軽減に配慮した自動車の使用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 無用なアイドリングをしない</li> <li>● 急発進及び急加速をしない。</li> <li>● 交通状況に応じた安全な定速走行に努める。</li> <li>● 早めにシフトアップする。</li> <li>● 無用な空ぶかしをしない。</li> <li>● 減速時には、エンジンプレーキを活用する。</li> <li>● 確実な点検・整備を実施する。</li> <li>● 不要な荷物を積まない。また、燃料をむやみに満タンにしない。</li> <li>● エアコンの使用を控えめにする。</li> <li>● 計画的なドライブをする。</li> </ul>					

## 4.5 緑を守り育てよう

### (1) 現状と課題

安曇野市の面積の60%は森林です。森林は、CO<sub>2</sub>を吸収して固定するはたらきを持っていますが、そのはたらきが大きいのは成長が旺盛な若い森林です。安曇野市内では林齢が40年以上の成熟した森林が多く、これらの森林ではCO<sub>2</sub>の吸収率はさほど高くはありません。一方、東山を中心に松枯れが発生したアカマツ林では大規模な更新伐が進められています。このような森林は、CO<sub>2</sub>の吸収源としてのはたらきが期待されます。市では「森林整備計画」および「里山再生計画」を策定し、これらに基づいて森林整備を進めています。CO<sub>2</sub>吸収源としての森林を拡大する点からも、森林整備は非常に重要です。

### (2) 施策体系



### (3) 重点的に取り組む項目

#### 8 「安曇野市森林整備計画」「安曇野市里山再生計画」に基づく森林整備の推進

- 2つの計画に基づき、森林整備を推進します。本計画では、森林整備が実施された面積を把握し、CO<sub>2</sub>吸収源としてどの程度のはたらきがあるかを推計し把握します。
- CO<sub>2</sub>の吸収源として算定する際、以下のデータを用います。  
森林整備面積（更新伐）、新生産量、間伐材積、森林の里親制度

(4) 具体的な取り組みのロードマップ

民：市民、事：事業者、行：行政をそれぞれ示します。

	H28年度 2016	H29年度 2017	H30年度 2018	H31 2019	H32 2020
8 「安曇野市森林整備計画」「安曇野市里山再生計画」に基づく森林整備の推進	事 行 森林整備の推進				
	行 森林整備によるCO <sub>2</sub> 吸収量の推計				
	参考「木質バイオマス資源利用促進プロジェクト」による取り組みの計画				
	事 薪の生産と利用				
	事 行 燃料の展開計画検討				
	事 行 燃料の展開計画作成				
	行 取り組み成果の発信				
	行 取り組みの検証と評価				
	<p>「安曇野市里山再生計画」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人手が入らなくなり、放置されて荒廃が目立つ安曇野市の里山について、森林資源の有効活用と土砂災害等の発生防止を目的とした里山再生のための計画です。</li> <li>● 「里山資源の利用」「里山での活動推進」「松枯れ・鳥獣被害の減少」を3つの基本目標として、山林所有者や林業者だけでなく、麓の平地に住む市民も幅広く参加した取り組みを目指しています。</li> <li>● 本計画とは、CO<sub>2</sub>の排出低減につながる「木質バイオマス資源利用促進プロジェクト」が関連することから、この計画の推進を支援します。</li> </ul>				
	<p>森林が持つCO<sub>2</sub>吸収のはたらきは、以下のデータを用いて算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林整備面積（更新伐）</li> <li>・ 里親制度（森林CO<sub>2</sub>吸収評価認証制度）に基づく吸収量</li> </ul>				

【参考】森林におけるCO2吸収量の算定式

森林におけるCO2吸収量は、「樹種」と「林齢」のデータを用いて、以下の計算式により算定されます。

森林 1ha あたりの吸収量 (t-CO<sub>2</sub>/年) 計算式

$$[ \text{蓄積増分} ] \times [ \text{拡大係数} ] \times [ \text{容積密度} ] \times [ \text{炭素含有率} ] \times [ \text{CO}_2 \text{ 換算係数} ]$$

[蓄積増分] ha あたりの森林の年間成長量 (m<sup>3</sup>)

(「幹」のみの量、長野県の場合、針葉樹は 2.1、広葉樹は 27.4 を用いる)

[拡大係数] 成長量(「幹」のみ)に枝・根の成長量を加算補正する

[容積密度] 成長量(体積)を乾燥重量に換算するための係数

[炭素含有率] 乾燥重量に占める炭素(C)の比率

[CO<sub>2</sub>換算係数] 算出された炭素(C)量を二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)に換算するための係数、0.5を用いる

下表を参照

参考：地方公共団体における施策の計画的な推進のための手引き(別冊1)(環境省)

樹種ごとの拡大係数・容積密度・炭素含有率

		BEF [-]		R [-]	D [t-d.m./m <sup>3</sup> ]	CF [t-C./t-d.m]	備考
		≤20	>20				
針葉樹	スギ	1.57	1.23	0.25	0.314	0.5	
	ヒノキ	1.55	1.24	0.26	0.407		
	サワラ	1.55	1.24	0.26	0.287		
	アカマツ	1.63	1.23	0.26	0.451		
	クロマツ	1.39	1.36	0.34	0.464		
	ヒバ	2.38	1.41	0.20	0.412		
	カラマツ	1.50	1.15	0.29	0.404		
	モミ	1.40	1.40	0.40	0.423		
	トドマツ	1.88	1.38	0.21	0.318		
	ツガ	1.40	1.40	0.40	0.464		
	エゾマツ	2.18	1.48	0.23	0.357		
	アカエゾマツ	2.17	1.67	0.21	0.362		
	マキ	1.39	1.23	0.20	0.455		
	イチイ	1.39	1.23	0.20	0.454		
	イチョウ	1.50	1.15	0.20	0.450		
外来針葉樹	1.41	1.41	0.17	0.320			
	その他針葉樹	2.55	1.32	0.34	0.352	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、栃木、群馬、埼玉、新潟、富山、山梨、長野、岐阜、静岡に適用	
	〃	1.39	1.36	0.34	0.464	沖縄に適用	
	〃	1.40	1.40	0.40	0.423	上記以外の都道府県に適用	
広葉樹	ブナ	1.58	1.32	0.26	0.573	0.5	
	カン	1.52	1.33	0.26	0.646		
	クリ	1.33	1.18	0.26	0.419		
	クスギ	1.36	1.32	0.26	0.668		
	ナラ	1.40	1.26	0.26	0.624		
	ドノロキ	1.33	1.18	0.26	0.291		
	ハンノキ	1.33	1.25	0.26	0.454		
	ニレ	1.33	1.18	0.26	0.494		
	ケヤキ	1.58	1.28	0.26	0.611		
	カツラ	1.33	1.18	0.26	0.454		
	ホオノキ	1.33	1.18	0.26	0.386		
	カエデ	1.33	1.18	0.26	0.519		
	キハダ	1.33	1.18	0.26	0.344		
	シナノキ	1.33	1.18	0.26	0.369		
	センノキ	1.33	1.18	0.26	0.398		
キリ	1.33	1.18	0.26	0.234			
外来広葉樹	1.41	1.41	0.16	0.660			
カンバ	1.31	1.20	0.26	0.468			
その他広葉樹	1.37	1.37	0.26	0.469	千葉、東京、高知、福岡、長崎、鹿児島、沖縄に適用		
	〃	1.52	1.33	0.26	0.646	三重、和歌山、大分、熊本、宮崎、佐賀に適用	
	〃	1.40	1.26	0.26	0.624	上記以外の都道府県に適用	

BEF: バイオマス拡大係数(「20」は林齢)

R: 地上部に対する地下部の比率

D: 容積密度

CF: 炭素含有率

出典：日本国温室効果ガスインベントリ報告書 2011年4月(環境省)

## 5. 進行管理

### 5.1 取り組みの成果把握

実行計画および行動計画は「安曇野市から排出される温室効果ガスの排出量を削減する」という目的により進められます。

一般的な計画では、計画に盛り込まれた具体的な取り組みの項目についての実績により、その成果を把握します。しかし地球温暖化対策では、次のような性質があります。

- 温暖化対策の取り組みの幅は非常に広範囲で、多岐にわたる。
- 取り組みの結果が、温室効果ガス排出削減量に換算できないものも多い。
- 市民・事業者における個別具体的な取り組みの実績は、把握が困難。

よって、その取り組みの成果は、市全域からの温室効果ガスの排出量で把握します。

ただし、個別具体的な取り組みの実績も把握する必要があることから、計画改訂のタイミングにおいてアンケートを実施し、取り組みの状況把握に努めます。

取り組みの成果把握方法の比較

方法	特徴	実施時期
統計データ等からの温室効果ガス排出量推計	<ul style="list-style-type: none"><li>● 実行計画策定時の根拠とした算出方法であり、時系列での比較が可能。</li><li>● リアルタイムの把握方法を検討し、実施する。 (現状の推計は統計情報を元にするため2年程度のタイムラグが生じる)</li></ul>	毎年
アンケート等による取り組みの実績把握	<ul style="list-style-type: none"><li>● 統計情報等では把握できない情報であり、個別にアンケート等を取ることで初めて把握できる。</li><li>● 市内のすべての家庭および事業所を把握することは困難であり、推計での把握となる。</li></ul>	計画改訂時

## 5.2 進行管理の仕組み

本計画の進行管理は、「環境行動計画」において既に実施されている仕組みを適用します。「環境行動計画」では、マネジメントの基本的なサイクルである PDCA サイクルに従い、毎年改善をはかっています。このサイクルは、毎年においては年間の取り組み予定をまとめた実施計画書と取り組み結果をまとめた年次報告書が基本となります。

PDCA サイクルの段階ごとの各主体の役割について、以下に示します。

### 計画する (Plan)

取り組みを企画し、関係者と調整の上、市民・事業者に対して広報・周知します。

推進会議 } 相互に連携しながら取り組みを企画し、実施計画書を作成して、情報  
庁内調整会議 } を市民・事業者へ広報・周知します。

ネットワーク：企画を共有し、協議の上、主体的に所属団体の計画に反映します。

市民・市民団体等・事業者：取り組みの情報を入手します。

### 実行する (Do)

企画に基づいて実践・啓発を行い、市民・事業者の参加をはかります。

推進会議：庁内調整会議、ネットワークと連携して、実践・啓発を行います。

庁内調整会議：推進会議、ネットワークと連携して、実践・啓発を行います。

(ネットワークへの説明など)

ネットワーク：推進会議、庁内調整会議と連携して、啓発を行います。

(所属団体への参加の呼びかけなど)

市民・市民団体等・事業者：プログラムに積極的に参加します。

### 点検する・評価する (Check)

取り組みの結果を集約し、各会議に報告して、点検・評価を受けます。

推進会議 } 相互に連携しながら取り組みの結果をとりまとめ、年次報告書を作  
庁内調整会議 } 成して環境審議会に報告します。

ネットワーク：所属団体の活動結果をとりまとめ、推進会議、庁内調整会議と情報共有します。

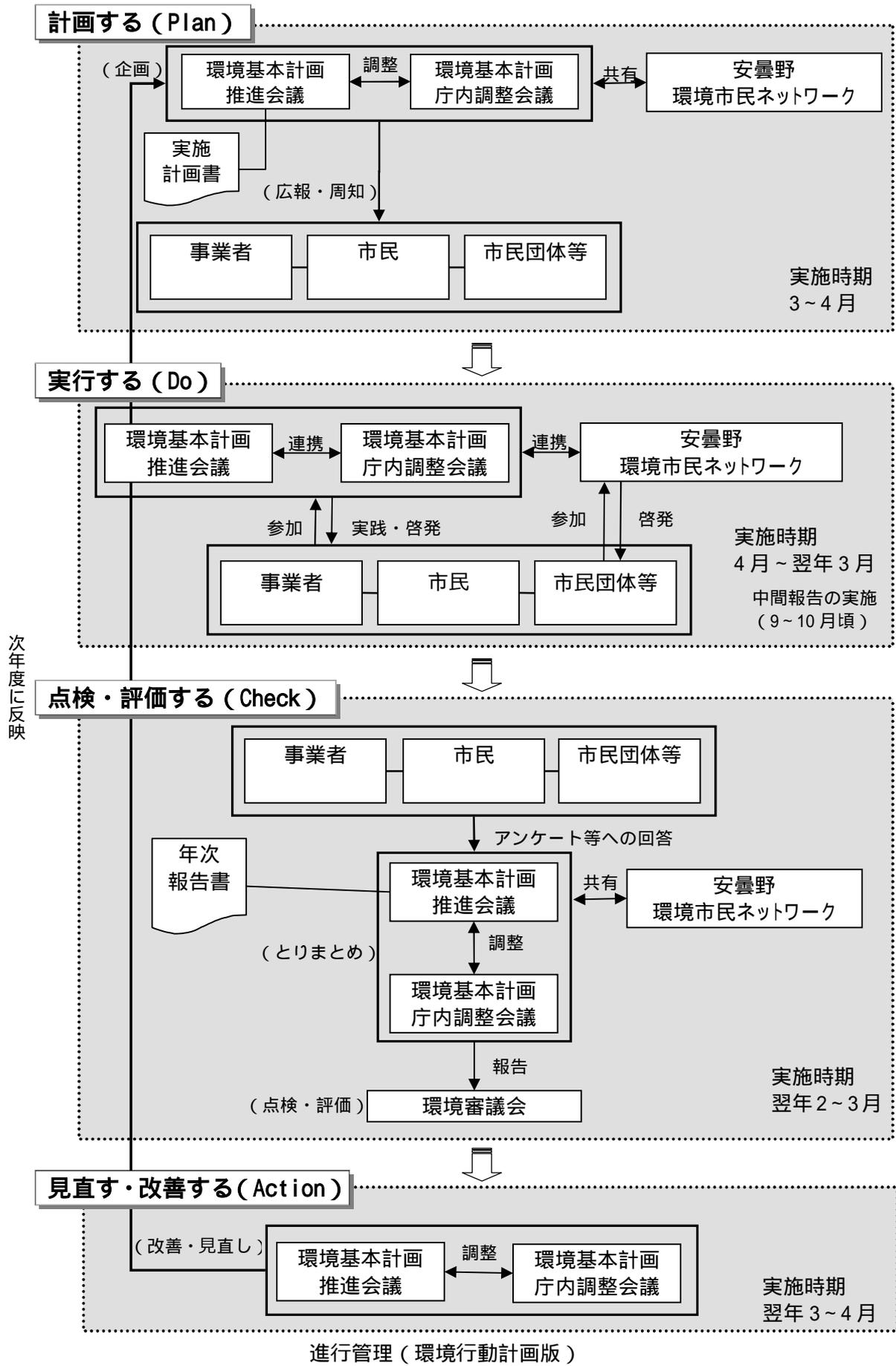
市民・市民団体等・事業者：取り組みに参加した結果を、アンケートへの回答等により報告します。

環境審議会：年次報告書について、点検・評価します。

### 見直す・改善する (Action)

点検・評価の結果についてとりまとめ、改善点を次年度の計画へ反映します。

推進会議 } 相互に調整をはかりながら、改善点を整理し、次年度の計画へ反映  
庁内調整会議 } します。



## 6. 今後の検討課題

本計画では、計画策定時点（平成 27 年 11 月）における地方自治体に求められる地球温暖化対策について検討しました。ただし、ベースとしたのは平成 24 年 3 月に策定した「安曇野市地球温暖化対策実行計画」であるため、最新の課題等に完全に対応しているわけではありません。地球温暖化対策については、新しい情報や知見も順次出てくるため、継続的な研究や検討が必要です。

現時点における、今後対応が必要な課題は以下のとおりです。

- 国の新目標への対応  
国は、平成 27 年 7 月に温室効果ガス排出削減についての新しい目標を決定しました。「2032（平成 42）年度に 2013（平成 25）年度比 26%削減」  
今後、安曇野市としてこの目標にどう対応していくか、検討が必要です。
- 温室効果ガス排出量のリアルタイム把握  
「5.1 取り組みの成果把握」で述べた通り、安曇野市から排出される温室効果ガス排出量の把握にはタイムラグが生じます。そこで、その対応として把握できる指標を検討し、最新の状況をできるだけリアルタイムに把握できるようにします。
- 「適応策」への対応  
地球温暖化が現実のものとなる中で、起こりつつある現象や今後予測される現象に対しての適応が必要となってきました。「適応策」については、現行の実行計画では言及していないため、今後検討が必要です。  
適応策の例としては、以下のようなものが挙げられます。
  - ・農産物の高温への備え（作目、品種、栽培法等の変更、改良等）
  - ・短時間の集中的な豪雨（ゲリラ豪雨）への備え
  - ・異常高温時の熱中症対策 …等

### 【検討例】記録的な集中豪雨への備え

2015（平成 27）年 9 月、台風から変わった低気圧の影響で、関東地方～東北地方にかけて大雨が降った。栃木県では 24 時間の降水量が 500 ミリを超えたところもあり、鬼怒川など多数の河川で洪水が発生し、栃木・茨城の両県を中心に甚大な被害が発生した。地球温暖化の進行により、このような過去に例のない記録的な大雨は、どこでも降る可能性がある。

そこで安曇野市においても、これまでの想定を超える雨が降った場合の被害発生についてもしミュレーションを行い、災害時の危険箇所の確認、避難誘導体勢の見直し、ハザードマップの更新など、万が一の場合に人命と財産を守るための対策を、関係部署間の協調により検討し講じる必要がある。